

科目名	多文化保育論		
担当教員名	大和 洋子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

近年日本において増えている、外国文化を背景に持つ家庭のこどもの保育を担当する際に気を付けるべきことを学ぶ。

科目の概要

日本の移民政策の歴史を追いながら、その変遷を学習し、近年の多文化の状況が起こっている背景を理解する。日本に住む外国人の中でも割合が多い、アジア諸地域の保育・幼児教育の実践ビデオを見て、共通点や違いを見つけ、その地域から日本に移住した家族が日本の就学前教育現場で体験するであろう問題、及びそのような子どもを受けれた就学前施設側が直面するであろう困難点について話し合う。学生の興味ある世界の幼児教育について調べ学習をして発表する。他国の実践を知ることにより、日本の幼児教育の位置づけを広い視野をもって理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業後に教育現場に入ることを前提に、現場で直面するであろう多文化の背景を持つ子どもの受け入れに関する知識を学ぶと同時に、対処できる素地を作る。

内容

1	オリエンテーション：自己/他己紹介。授業参加者皆で文化とは何かを考える。
2	記録ドキュメンタリー『青い目、茶色い目』を鑑賞。なぜ「多文化共生」が必要なのか。
3	日本の移民政策の歴史：移民送り出しの歴史、労働者としての移民受け入れ政策
4	日本在住の外国出自の人々：オールドカマーとニューカマー
5	アジアの就学前教育 日本・韓国
6	アジアの就学前教育 中国・台湾
7	アジアの就学前教育 シンガポール・香港
8	世界の就学前教育と多文化 (アメリカ・カナダ) 多文化主義国家
9	世界の就学前教育と多文化 (北欧) 移民・難民の受け入れと課題
10	世界の就学前教育と多文化 (ヨーロッパ) 移民・難民受け入れの狭間
11	就学前教育と貧困問題
12	就学前教育と宗教：指導者として気を付けなければならないこと
13	就学前教育の国際比較< 保育者・教育者養成とカリキュラム >
14	就学前教育の国際比較：何のための国際比較か
15	総復習：「共生」の言葉の意味の再確認。総復習。

評価

授業中のプレゼン(40%)と、課題レポート(60%)を総合的に評価して、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】実習に行った園や施設での体験を振り返っておく。発表の際にはリサーチをして発表資料を作成する。

【事後学修】毎回学習した内容を振り返り、復習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】咲間 まり子 編『多文化保育・教育論』（株）みらい（2014年）ISBN:978-4-86015-319-9

【推薦書】泉 千勢・一見真理子・汐見稔幸編著『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店（2009年第2刷）

【参考図書】OECD編著 星三和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳『OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』明石書店

科目名	保育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目です。幼児教育学の中でさらにこの専門領域について追究し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としています。ここでの学びが卒業研究に続いていきます。

科目の概要

保育の基礎となる発達理論について、その概念を抑え、保育という窓からどのようにとらえられるのか、それら発達理論を踏まえて保育をどのように展開していくのかについて、これまで学習してきた保育の知識と実習体験を生かしながら考えていきます。

資料や映像等を用いて、具体的な保育実践を通して保育を考えていきたいと思えます。

学修目標

- ・自分の保育実践を省察し子ども理解を深める
- ・保育者に求められる多様な役割を構造化してとらえる。
- ・1年間の保育の流れや卒園までの発達の経過を構造化してとらえる。
- ・自分の保育実践に新たな視点を加えることを目指す。

内容	
1	保育とは
2	子どもと保育者 (大人) の関係
3	自発的な活動としての遊び
4	愛着理論について理解する
5	愛着理論を保育の営みの中でとらえる
6	愛着理論を踏まえた保育援助の在り方について考える
7	アフォーダンスについて理解する
8	「環境を通しての保育」とアフォーダンス
9	アフォーダンスを踏まえた環境構成の在り方について考える
10	アフォーダンスを踏まえた保育援助の在り方について考える
11	心の理論について理解する
12	「仲間関係の発達」と心の理論
13	心の理論と特別な配慮が必要な子どもの理解と保育援助
14	心の理論を踏まえた長期的視野に立った指導計画と保育援助
15	まとめ

評価

授業への参加状況 (30%)、学期内の小レポート (40%)、学期末のレポート (30%) の比率で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

授業課題は、毎回のリアクションペーパーに記入したものにコメントして翌週返却。レポート課題は次週以降で解説した後、コメントを記載して返却。

授業外学習

【事前予習】1時間程度。乳幼児の発達の復習、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育要領の基本となる考えを確認しておく。前週に指示したテキストの指定箇所を読んでおく。

【事後学修】1時間程度。授業内に配布した資料やテキストをもとに、その週の学習内容を確認しておく。課題を作成する。発展的な疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回プリント資料を配布する

【教科書】初回授業時に指定する

【推薦書】津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376.1/T

津守真 『子ども学のはじまり』 フレーベル館

津守真・森上史朗監修 『倉橋惣三文庫全10巻』 フレーベル館

守永英子・保育を考える会 『保育の中の小さなこと大切なこと』 フレーベル館

その他、授業時に指示する

科目名	保育学演習		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）です。

科目の概要

「保育学」で学んだことを継続発展させ、文献購読や、具体的な保育事例研究を行います。自らの保育実践記録や、保育実践研究、事例研究、保育記録を基に、保育理解、子ども理解を深めていくことを目指します。

ドキュメンテーションの作成など、保育をビジュアルに表現することを試みます。

日本だけでなく、諸外国の保育の実態や課題についても学びましょう。

学修目標

- ・卒業研究をすすめていく上で求められる基礎的な知識や技能を獲得する。
- ・保育実践記録の作成と読み取りの力を養う。
- ・文献のレジюмеを作成して発表する技法を身につける。

内容

1. 保育実践記録/保育ドキュメンテーション/ポートフォリオ等の作成と報告

受講者自身の実践記録や観察記録等を作成、報告し、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

2. 保育実践記録等をめぐる討論

保育者による実践記録・事例研究や観察記録・面談記録等を読み、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

自らの保育観・児童観・発達観の形成につなげると共に、実践研究の方法を学ぶ。

3. 保育の観察と討論

実際の保育場面を観察し、それを基にテーマを設定して話し合う。

4. ロールプレイや環境構成の体験

自分の立てたねらいに基づいて実際の保育室の環境構成を行ったり、ロールプレイを行い、保育援助について理解する。

5. 文献講読

保育理論と保育実践に関わる研究論文や著書を分担して読み、討論、報告する。

評価

授業でのレポート発表と討論への参加状況(70%)、学期末のレポート(30%)により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

提出されたレポートは、コメントを記載して返却。毎回のリアクションペーパーにもコメントを記入して返却する。

授業外学習

【事前予習】1時間程度。これまでの実習体験などを振り返り、さらに学びたい自己課題を明確化しておく。発展的に推薦書を読むことも勧めたい。

【事後学修】1時間程度。実際の保育の場の見学や保育実践、インタビューなども勧めたい。講演会など、学外の学習機会も紹介する。疑問や意見があれば、オフィスアワーを活用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に資料配布。

倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

科目名	保育実践論		
担当教員名	伊集院 理子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育実践を様々な角度から検討する方法や実践の展開の方法について学び、保育実践の望ましいあり方を理解し、実践力を身につけることを目的とする。

科目の概要

資料や画像を通して、具体的な保育実践について学ぶ。

学修目標（=到達目標）

保育実践の大切な意味を感じ取り、保育へ前向きに向かう姿勢を身につける。

内容

- 1、オリエンテーション 授業の概要
- 2、グループワーク 夢中になった遊びを思い出そう
- 3、保育実践の魅力 画像から学ぶ「遊びって面白い！」
- 4、グループワーク 日本の四季を生かした実践について考えよう
- 5、保育実践の魅力 画像から学ぶ 「行事を楽しむ」
- 6、保育実践の魅力 画像から学ぶ「表現を楽しむ」
- 7、グループワーク 読み聞かせ
- 8、グループワーク いろいろ作ってみよう
- 9、保育実践の魅力 画像から学ぶ 3歳児の世界
- 10、保育実践の魅力 画像から学ぶ 4歳児の世界
- 11、保育実践の魅力 画像から学ぶ 5歳児の世界
- 12、グループワーク 歌に合わせた振りを考えよう
- 13、保育実践の魅力 画像から学ぶ「保育って面白い！」
- 14、国内外の保育実践・理論を学ぶ
- 15、まとめ

評価

授業への参加度や授業終了時のコメントペーパー（40%） 提出課題及びレポート（60%）により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】必要に応じて指示します。

【事後学修】授業内容の振り返りを各自に行ってください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	保育人間学演習		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の専門科目であり、卒業研究につながる演習形式の選択科目である。

序盤では、保育をめぐる今日的な課題を何点かとりあげ、現状と課題を検討し、乳幼児期の育ちを捉えるまなざしを養う。中盤では、教科書を用い、テーマごとに保育のエピソードを読み、考察する。ここでは、自分でもエピソードを書くことを課題としたい。後半では、インタビューデータやエピソードを用いた論文を講読する。

保育人間学と同様、より豊かに乳幼児期の子どもの世界を理解することをめざす。

後期では卒業研究を書くにあたって、問いをたてたり、自分で感じたことや考えたことを的確に言語化する力をつけることを求める。

内容	
1	保育・教育の現場で子どもを理解すること
2	保育の現状と課題から 行事とは その1
3	保育の現状と課題から 行事とは その2
4	保育の現状と課題から 幼小連携から見えてくるもの その1
5	保育の現状と課題から 幼小連携から見えてくるもの その2
6	保育の現状と課題から 幼小連携から見えてくるもの その3
7	仲間のレポートを読み合うことから
8	仲間のレポートを読み合うことから
9	仲間のレポートを読み合うことから
10	仲間のレポートを読み合うことから
11	仲間のレポートを読み合うことから
12	子どもの世界を考える 架空の世界と現実の世界のはざままで その1
13	子どもの世界を考える 架空の世界と現実の世界のはざままで その2
14	保育者という職業を考える
15	まとめ

評価

平常点20点 リアクションペーパー50点 期末レポート30点で評価する。合計60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に指示した教科書の該当エピソードを読み、次授業までに考察を自分なりにまとめ、提出することを課題とする。

【事後学修】授業内容を振り返り、自らのこれまでの保育実践を改めて捉え直し、新たな理解が生まれたり、理解が深まっ

たことについて、まとめていくことを求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する。

【推薦書】『幼小連携の原理と実践』酒井朗 横井紘子 著 ミネルヴァ書房 2011

『エピソード記述で保育を描く』鯨岡峻 鯨岡和子 著 ミネルヴァ書房 2009

科目名	保育カリキュラム論		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目です。子どもの育ちを支える保育の中で特に乳幼児の保育について追究し、専門性を深めていきます。ここでの学習が卒業研究につながっていきます。

科目の概要

子どもの育ちとさまざまな環境とのかかわりの関係性を理解し、乳児期に必要なかつ適切な保育の方法とは何かを考え、実践力に繋げていくことを目的としています。

学修目標（＝到達目標）

- ・乳児保育の実践及び課題について理解を深める
- ・海外の乳児保育の在り方を知り比較・考察する
- ・乳児保育と環境・子どもの発達理解を深める

内容	
1	オリエンテーション
2	乳児保育の今日の課題
3	母子関係と愛着
4	保育者との関係（愛着）
5	さまざまな環境との関わり（仲間関係）
6	保育援助の在り方
7	保育援助の在り方
8	乳児保育の保育カリキュラム
9	乳児保育の保育カリキュラム
10	海外の乳児保育
11	海外の乳児保育
12	事例検討とグループワーク
13	事例検討とグループワーク
14	発表
15	まとめ

評価

授業参加（出席）30%レポート30%学期末レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】乳幼児の発達過程の復習 保育所保育指針を読んでおく。

【事後学修】授業の内容を確認しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 初回の授業で指定する

【推薦書】

【参考図書】民秋言編著「幼稚園教育要領と保育所保育指針のと幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」萌文書林

科目名	保育カリキュラム論		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目です。受講する学生は1・2年次の学習で身に付けた保育の専門的な知識があり、児童学演習・幼児教育基礎演習において、保育所・幼稚園・特別支援学校にて、参加観察実習を体験しています。そのため、この科目では、学習する内容と保育の実際をつなげて捉える視点を持ちながら、保育カリキュラムを構成する内容についての専門的な知識や考え方を身に付けていきます。

科目の概要

この科目は、まずは遊びの本質について理解します。次に子どもの発達を促進させる遊びの価値や遊びを援助する保育者の役割等についての理解を深めるとともに、知識を蓄えます。更に、蓄えた知識を活用して子どもの日常的な遊び (例 : 砂遊び) に注目し、その活動に込められている独特の遊びの価値や具体的な発達の姿を捉えて、3・4人のグループ毎に保護者向けのポスターを作成し、発表し合い、学生同士で学びの共有を図ります。

学修目標

1. 保育および保育カリキュラムを構成するそれぞれの内容を理解し、総合的にとらえる。
2. 子ども理解に基づいて保育カリキュラムを作成する態度を培う。
3. 各自の中にある子ども観や保育観を耕して柔軟さを身に付け新しい見方や考え方を加えていく。

内容

1	子どもの興味・関心が広がり、深まるための学びの環境を構成することについて考える
2	保育の特性と保育者の多様な職務とのつながりから保育者の仕事を理解する
3	子どものありのままの姿を理解し、人間にとっての子ども時代のもつ意義を考える
4	子どもにとっての遊びの意義と目的を考える
5	保育における遊びの位置づけを理解する
6	遊びの社会的ステージ (パーテン) と認知的ステージ (ピアジェ・シュラミンスキー) を知る
7	ふり遊びとごっこ遊びについて理解する
8	遊びによる発達支援について、支援の心構えや役割や遊びの支え方を知る
9	身体的・情緒的・社会的・認知的発達における遊びの価値を理解する
10	日常的な遊びの中にある遊びの価値を保護者に伝えるポスターを作る (グループワーク)
11	日常的な遊びの中にある遊びの価値を保護者に伝えるポスターを作る (グループワーク)
12	日常的な遊びの中にある遊びの価値を保護者に伝えるポスター発表を行う
13	日常的な遊びの中にある遊びの価値を保護者に伝えるポスター発表を行う
14	シュタイナー幼稚園の保育を学ぶ
15	まとめ

評価

学修目標に関する授業時のレポート (40%) および学期末のレポート (50%)、さらに通常の授業態度 (10%) によ

り評価を行い、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

授業外学習

【事前予習】次回の授業に関連する資料を熟読し、分からない語句を調べる。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】ステファニー・フィーニイ他 Who am I 研究会訳『保育学入門』ミネルヴァ書房

【参考図書】子どもと保育総合研究所森上史朗他『yaよくわかる保育原理第2版』ミネルヴァ書房

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	保育カリキュラム論演習		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科の性格

この科目は幼児教育学科の学科専門科目です。「保育カリキュラム論」での学習を基盤にしながら「総合的に保育することについて追究することで、乳児保育についての専門性を深めていきます。

教科の概要

乳児保育とは何か、子どもの育ちの中で発達を促すためどう指導・援助すればよいかについて、教科書や各自の実習での保育経験を手掛かりとしながら、各自が自分の課題として取り組み、自分なりの研究課題の確立を目指します。

学修目標

- ・卒業研究に取り組むにあたっての基礎的な知識を獲得する。
- ・乳児保育の充実に向けて、今何が大切なのか、保育者の役割とは何か、構造的に考察する
- ・事例検討を通して、個々の研究テーマに取り組む

内容	
1	子どもの育ちと乳児期の育ちの相違点
2	0～2歳児の育ちの理解
3	乳児期の育ちを支える保育者の役割と課題
4	仲間の中での育ちと課題
5	乳児保育の課題
6	事例検討とグループワーク
7	事例検討とグループワーク
8	グループワーク
9	グループワーク
10	グループワーク
11	グループワーク
12	発表とディスカッション
13	発表とディスカッション
14	発表とディスカッション
15	まとめ

評価

授業への参加度 (グループ討議への参加度を含む) 20% 毎回のレポート20% 学期末のレポート60%とし、総合評価60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

授業外学習

【事前準備】授業内容に関心を持つ

【事後学修】課題について積極的にかかわる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業で随時紹介する

【推薦書】

科目名	保育カリキュラム論演習		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科の性格

この科目は幼児教育学科の学科専門科目です。本科目では「保育カリキュラム論」で学習した、遊びの本質・子どもの発達を促進させる遊びの価値・遊びを支援する保育者の役割等についての理解と知識を基に、子どもの実態に即した、日々の保育カリキュラムの作成に関連する内容について学びます。

教科の概要

子どもが日常的に取り組んでいる代表的な遊びを取り上げて、子どもが感じ取っている「その遊びのおもしろさ」に共感し、一緒に楽しむ姿勢を培います。次に保育者側から積極的に子どもに提案したいおもしろさについてアイデアを出し合い、そのおもしろさを体験することで育つ力を明らかにし、環境構成や援助の仕方考えます。このような演習によって、実践を考慮した上でのカリキュラム作成について学びます。

学修目標

1. 子どもにとっての遊びのおもしろさを子どもの立場で考え一緒に楽しもうとする気持ちをもつ。
2. 子どもに提案したい遊びのおもしろさを考え出そうとする頭と心の柔軟さをもつ。
3. 遊びの中での子どもの発達をとらえる際の肯定的な見方について理解する。
4. 子どもの遊びに適切な援助をするために多様な援助の方法を知り、把握する。
5. 卒業研究に取り組むにあたっての基礎となる遊びと子どもを取り巻く知識を獲得する。

内容

1	保育における遊びの指導の仕方の多様性を知る
2	保育における遊びの指導の仕方の多様性を知る
3	遊びのおもしろさについて考える・素朴な遊びが子どもにもたらす意味を考える
4	戸外での自然を活用した遊びや草花遊びのおもしろさを理解して保育を考える
5	ルールのある遊び(ゲーム・鬼ごっこ)のおもしろさを理解して保育を考える
6	色々な鬼ごっこの面白さと子どもの育ちを保護者に伝えるポスターを作る(グループワーク)
7	色々な鬼ごっこの面白さと子どもの育ちを保護者に伝えるポスターを作る(グループワーク)
8	絵本のおもしろさを理解して保育を考える
9	手遊びのおもしろさを理解して保育を考える
10	ごっこあそびのおもしろさを理解して保育を考える
11	ごっこ遊びのおもしろさを理解して保育を考える
12	生き物と関わることのおもしろさを理解して保育を考える
13	探険遊び(冒険遊び)のおもしろさを理解して保育を考える
14	遊ぶということと発達を考える 揺れ動くことと境界作りから
15	遊ぶということと発達を考える 揺れ動くことと境界作りから 学びのまとめをする

評価

授業への参加度（グループ討議への参加度を含む）20% 毎回のレポート20% 学期末のレポート60%とし、総合評価60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

授業外学習

【事前準備】次回の授業に関連する教科書の部分を熟読し、分からない語句を調べる。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河崎道夫『新保育論3あそびのひみつ 指導と理論の新展開』ひとなる書房

【推薦書】小川博久『遊び保育論』萌文書林

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	青年心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科における保育士資格取得の選択必修科目の一つである。保育士資格取得希望の2・3・4年生を対象とする。

科目の概要

この科目では、講義形式で思春期・青年期の発達の特徴や生じうる臨床的な課題について学ぶ。また、履修者同士が各回のテーマについて、授業中にグループワークを行いながら自己を振り返り、ディスカッションなどを行うことにより、青年期にある履修者自身について理解するとともに、他者の理解を深める。

学修目標

1. 思春期・青年期の発達の特徴と臨床的な課題を理解する
2. 他者との話し合いの中で、自分を客観的に捉える
3. 自分の考えていることを、他者が理解できるように伝える力を磨く

内容

1	オリエンテーション：思春期・青年期の意味
2	青年期の自我の発達
3	青年期の認知発達
4	青年期の身体発達と心の発達
5	青年期の家族関係
6	青年期の友人関係
7	青年期の恋愛関係
8	前半のまとめ
9	青年と学校
10	青年と文化
11	就職とキャリア設計
12	青年期の臨床的な課題 1
13	青年期の臨床的な課題 2
14	青年期と精神疾患
15	まとめ

評価

授業中のリアクションペーパー30点、ワークの課題30点、期末レポート40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布資料を読む。

【事後学修】ワークの内容についてまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】プリント・資料を配布する。

【推薦書】宮下一博監修 松島公望・橋本広信編「ようこそ！青年心理学」ナカニシヤ出版
大野久編著「エピソードでつかむ青年心理学」 ミネルヴァ書房

科目名	発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間の発達とは何かについて特に心理面に焦点を当て、研究方法や明らかにされて来た知見、今後の研究課題などについて、学生一人一人が問題意識を持ちつつ理解することを目指す。

科目の概要

乳幼児期から児童期への発達を中心に、最新の研究成果を紹介しながら、心理学に関連する様々な領域の発達について理解を深める。日常の経験や実習での体験などと併せて考えていくことにより、人間の発達について自ら包括的に考える力を養いたい。

学修目標

- ・乳幼児期から児童期への心理学的発達の特徴を研究例を通して理解する。
- ・最新の研究知見を日常の経験や実習での体験などと結びつけて考察し、人間の発達について包括的に考える力を身につける。
- ・各回の講義後に出される課題を次回授業開始前までに提出し、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

内容

1	発達心理学とは
2	人生における胎児期・乳幼児期の意味
3	人間発達の可塑性
4	母子相互作用
5	世界の認識
6	気質・社会性
7	象徴機能の成立と言語発達
8	言語の機能と会話の発達
9	記憶
10	心の理論
11	遊びの発達
12	思考と語り
13	科学する心
14	生活世界から学びの世界へ
15	まとめ・質疑応答

評価

授業中の提出課題 (15回) 100点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

授業外学習

【事前予習】指定テキストをよく読んでおくこと。

【事後学修】授業内容をよく復習し、理解しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』 ミネルヴァ書房

【推薦書】 『生涯発達心理学とは何か:理論と方法(講座生涯発達心理学;第1巻)』無藤隆・やまだようこ編集(金子書房)

『人生への旅立ち:胎児・乳児・幼児前期(講座生涯発達心理学;第2巻)』麻生武・内田伸子編(金子書房)

『子ども時代を生きる:幼児から児童へ(講座生涯発達心理学;3)』内田伸子・南博文編(金子書房)

科目名	発達心理学演習		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

発達心理学や関連領域 (保育実践など) の実証的研究論文を中心に講読し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。

科目の概要

研究の目的、方法、結果、考察を読みこなすスキルを身につけ、実際に研究計画を立てる力を養うことを目的とする。学生一人一人が1本ずつ発達心理学や関連領域の実証的研究論文を講読し、内容を要約して発表し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。

前期に発達心理学を履修済みの学生のみ受講を許可する。また、4年次の卒業研究に発達心理学分野を選ぶ学生は履修していることが望ましい。

学修目標

- ・発達心理学の古典的論文を通して、専門知識について理解を深める。
- ・各人が自分の担当文献の内容をまとめたレジュメを作成し、内容を発表することで、研究の目的、方法、結果、考察を読みこなすスキルを身につける。
- ・研究の意義や批判点について参加者全員で討論することで、批判的思考力、課題解決力を養う。

内容

1	授業ガイダンス：レジュメ作成方法、発表の方法
2	担当教員による発表・討論
3	学生による発表・討論
4	学生による発表・討論
5	学生による発表・討論
6	学生による発表・討論
7	学生による発表・討論
8	学生による発表・討論
9	学生による発表・討論
10	学生による発表・討論
11	学生による発表・討論
12	学生による発表・討論
13	学生による発表・討論
14	学生による発表・討論
15	まとめ

評価

分担分の発表80点、他の学生の発表時の取り組み20点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

授業外学習

【事前予習】自分の担当箇所だけでなく、他学生の担当箇所についても、文献を熟読しておく。

【事後学修】授業内容をよく復習し、理解した上で、卒研のテーマについて考えるきっかけとする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉村伸一郎・坂田陽子編 『実験で学ぶ発達心理学』 ナカニシヤ出版

その他、適宜、資料を配付する。

科目名	発達臨床論		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育専攻の専門科目であり、選択科目です。

科目の概要

子どもたちの育ちは様々です。何らかの心の問題や葛藤、発達の課題を抱えている子どもがいますが、発達心理学的な知見で子どもが抱えている課題を捉えなおし、どのように保育場面あるいは生活場面で援助したら良いかについて実践的に学んでいきます。

学修目標

発達臨床心理学の初歩的な知識を学びながら、今日の子どもの臨床的課題を把握します。子どもの発達を踏まえ、さまざまな問題が発生する原因について発達心理学的な見地から考え、その上で、一人の保育者として何が出来るのか、実践的に考えていくことを目標とします。

内容

何らかの支援が必要な子どもたちとはどのような状況 (環境) にあるのかを知ることから始め、子どもたちの現状を理解するために、さまざまな文献、資料 (視聴覚教材を含む) をもとに直面している課題と今後の展望についてディスカッションを通して学びを深めていきます。また子どもの育つ環境として望ましくない場合も現実の場面では多くあります。そうした状況にある親子についてどのような支援が出来るのか、また子どもが抱えている要因、親が抱えている要因、社会的環境要因についても学びながら援助の方法について考えていきます。

以下に述べるテーマを取り上げます。

保育現場での発達相談の活用とそこから見えてくる保育現場での課題

保育所での発達相談の実践を通して、保育現場での発達支援を考える

子どもの要因：発達障害を中心に考える

保育者と親の要因：落ち着きのない子どもの例から

事例検討

まとめ

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度 (30点)、授業内でのレポート (20点)、最終課題 (50点) により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

授業外学習

【事前予習】与えられた課題に対して自分の意見が述べられるよう考えをまとめておくこと。

【事後学修】理解を深めるため自主的に文献を探したり、自分の考えを文章にしてまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指定する

【推薦書】授業内で必要に応じて随時紹介する

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

科目名	発達臨床論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の専門科目であり、選択科目です。社会に出た際に必要とされる共感的に関わる基礎力を習得する事を目指します。

科目の概要

一人一人の子どもたちの育ちは様々ですが、その子ども達が生き生きと楽しく毎日を過ごすためにどのような関わりが必要かを心理学的見地から学んでいきます。何らかの心の問題や葛藤、発達の課題を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて実践的に援助する方法について学び、保育場面あるいは生活場面での実践について考えながら学んでいきます。

学修目標

臨床発達、臨床心理学の初歩的な知識を学びながら、今日の子どもの臨床的課題を把握します。子どもの発達を踏まえ、さまざまな問題が発生する原因について心理学的な見地から考え、その上で、一人の人間としてまた保育者として何ができるのかを考えていくことを目標とします。

内容

何らかの心理的支援が必要な子どもたちとはどのような状況 (環境) にあるのかを知ることから始め、子どもたちの現状を理解するために、さまざまな文献、資料 (視聴覚教材を含む) をもとに直面している課題と今後の展望についてディスカッションを通して学びを深めていきます。また子どもの育つ環境として望ましくない場合も現実の場面では多くあります。そうした状況にある親子についてどのような支援が出来るのか、また子どもが抱えている要因、親が抱えている要因、社会的環境要因についても学びながら援助の方法について考えていきます。

以下に述べるテーマを取り上げます。

1. 現代の子育て事情と支援を必要とする子どもの現状
支援が必要な問題について考える (3回)
2. 事例検討とグループワーク (3回)
3. 子どもの要因：発達障害を中心に考える (3回)
4. 親の要因 (1回)
5. 社会的要因 (1回)
6. さまざまな環境での子どもの育ちについて (3回)
7. まとめ (1回)

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度 (30点)、授業内でのレポート (20点)、最終課題 (50点) により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

授業外学習

【事前予習】与えられた課題に対して自分の意見が述べられるよう考えをまとめておくこと。今まで学んだことを理解しているか自分自身で確認しておくこと。

【事後学修】理解を深めるため自主的に文献を探したり、自分の考えを文章にしてまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指定する

【推薦書】授業内で必要に応じて随時紹介する

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

科目名	発達臨床論演習		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科3、4年生の専門科目であり、選択科目である。

科目の概要

支援を必要とする子どもたちの具体的な援助について学ぶ。さらに子どもの支援のみならず、家族支援、地域支援、保育所・幼稚園・学校・専門機関との連携などとの関係を踏まえながら、子どもの育ちを支えるためにできることについて幅広く探ることとする。

グループディスカッションやグループワークを通して学生自身が協力しながら相互学習することを求める。積極的に問題意識を持ち、自分から探求しようとする意欲が求められる内容となる。

受講生の関心をもとに文献の購読、事例研究の分析、子どもに関する時事問題等を中心に考えていく。また子どもの心理的ケアについて、具体的事例を取り上げ、心理学的観点から考えていくこととする。

学修目標 (= 到達目標)

受講生自身が持つ子ども観がどのようなものかを自覚し、その上で自身が実践できる支援についての考えを具体的にイメージ出来るようにすることを目標とする。

内容

取り上げる内容としては以下に示すが、グループワーク等をなるべく多く取り入れながら進めていく。

また受講生と相談しながら取り上げる内容等を随時決めていく。

1. 支援を要する子どもの現状を理解する (3回)
2. 保育者としてどのような個別的に対応を行うことができるか (2回)
3. 特別なニーズがある子どもたちを理解しその支援について考える (3回)
4. 家族支援とは何か、親子関係を考えることから始める (3回)
5. 様々な研究から学ぶ (3回)
6. まとめ: 子どもたちが育っていく上で自分に出来ることは何かを考える (1回)

評価

授業内での小レポート(20%)、授業への参加度(20%)、自己課題に即した調査研究(40%)、グループワークの発表(20%)などから総合評価60点以上を合格点とする。

授業外学習

【事前予習】与えられた課題に対して自分の意見が述べられるよう考えをまとめておくこと。

【事後学修】理解を深めるため積極的に文献を探し読み進めること。また、自分の考えを文章にしてまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指定する

【推薦書】授業内で必要に応じて随時紹介する

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

科目名	発達臨床論演習		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科3、4年生の専門科目であり、選択科目である。社会に出た際の実践力となるよう共感的な関わりから学びを深めることを目指す。

科目の概要

支援が必要な子どもたちの心理的ケアについて学ぶ。さらに子どもの支援のみならず、家族支援、地域支援、保育所・幼稚園・学校・専門機関との連携などとの関係を踏まえながら、子どもの育ちを支えるためにできることについて幅広く探ることとする。

グループディスカッションやグループワークを通して学生自身が協力しながら相互学習することを求める。積極的に問題意識を持ち、自分から探求しようとする意欲が求められる内容となる。

受講生の関心をもとに文献の購読、事例研究の分析、子どもに関する時事問題等を中心に考えていく。また子どもの心理的ケアについて、具体的事例を取り上げ、心理学的観点から考えていくこととする。

学修目標 (= 到達目標)

受講生自身が持つ子ども観がどのようなものかを自覚し、その上で自身が実践できる支援についての考えを具体的にイメージ出来るようにすることを目標とする。また自分の考えをまとめ、的確に表現できる力を養う。

内容

取り上げる内容としては以下に示すが、グループワーク等をなるべく多く取り入れながら進めていく。また受講生と相談しながら取り上げる内容等を随時決めていく。

1. 支援を要する子どもの現状を理解する (3回)
2. 保育者としてどのような心理的ケアを行うことができるか (2回)
3. 特別なニーズがある子どもたちを理解しその支援について関係性から考える (3回)
4. 様々な研究から学ぶ (2回)
5. 学んだことを伝える プレゼンテーション (4回)
6. まとめ : 子どもたちが育っていく上で自分に出来ることは何かを考える (1回)

評価

授業内での小レポート (20%)、授業への参加度 (20%)、自己課題に即した調査研究 (40%)、グループワークの発表 (20%) などから総合評価60点以上を合格点とする。

授業外学習

【事前予習】与えられた課題に対して自分の意見が述べられるよう考えをまとめておくこと。他者の意見に耳を傾けられるよう気持ちを整えること。

【事後学修】理解を深めるため積極的に文献を探し読み進めること。また、自分の考えを文章にしてまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指定する

【推薦書】授業内で必要に応じて随時紹介する

【参考図書】授業内で必要に応じて随時紹介する

科目名	言語発達心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間生活学部幼児教育学科専門科目（選択）である。後期に「言語発達心理学演習」を履修予定の学生は、前期にこの科目を履修していることが望ましい。

科目の概要

ことばは、コミュニケーションの手段とともに思考の道具である。私たちはことばをどのように獲得してきたのだろうか。この科目では人間の発達の中で、特に「ことばと思考」に焦点をあてて、乳幼児のことばや思考の発達、ことばの発達の障害について理解を深め、ことばを育てる初期環境の重要性を考える。

学修目標

1. ことばの発達過程を理解する
2. 子どもの思考の発達過程を理解する
3. 言語発達の障害について理解する

毎回の授業の中で、リアクションペーパーを書き、授業内容について各自が考察する。

内容

1	ことばと思考の発達について：導入
2	ことばの獲得を支えるもの
3	ことばの発達過程
4	語彙の発達
5	読み書き能力の発達
6	絵本との出会い
7	前半のまとめ
8	会話の発達
9	ことばの発達の個人差
10	第2言語獲得
11	言語発達の障害の基礎
12	言語発達の障害の実際
13	子どもの思考(1)
14	子どもの思考(2)
15	まとめ

評価

毎回授業内のリアクションペーパー30点、レポート課題70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布資料を読む。

【事後学修】授業内の指示にしたがい、ことばのデータを収集し、まとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中プリントを配布する。

【推薦書】岩立志津夫・小椋たみ子編 『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房

内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

科目名	言語発達心理学演習		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間生活学部幼児教育学科の専門科目（選択）である。この科目を履修する場合には、前期の「言語発達心理学」を履修していることが望ましい。

科目の概要

各受講者が、自分の関心と興味に基づいて、言語の発達や保育に関連する研究論文を読み、レジユメを作成し、パワーポイントによる発表を行うとともに、その内容について履修者で議論する。

学修目標

論文・資料の探し方、論文の読み方、レジユメの作り方、パワーポイントによるプレゼンの仕方など、卒業研究を行うために必要とする力を養うことを目的とする。

内容

学生が各自の興味・関心に基づき、言語発達心理学や保育に関連する研究論文を読み、レジユメを作りパワーポイントにより内容を発表し、研究の意義や今後の展開について履修者全員で討論する。

- (1)授業ガイダンス
- (2)担当教員による発表
- (3)～(14)学生による発表
- (15)まとめ

評価

分担部分の発表80点、ゼミ中のコメント・ゼミへの積極的な参加度20点として評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】指定された論文を読んでくる、発表用パワーポイント、レジユメの作成
- 【事後学修】レジユメの修正

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【テキスト】プリントを配布する。

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は幼児教育学科の専門科目「生活福祉」に位置する選択科目である。子ども家庭福祉 をふまえて、現在の子ども家庭福祉問題に関わる援助の実際について、関わる機関、施設、領域、対象別にテーマを設けて検討する。特に、法改正の変遷や子どもをめぐる問題、子どもの権利の保護の実情等に即して、専門援助のあり方を考察できるようになることを目指す。

科目の概要 本講義では、子ども家庭福祉 をふまえて、現在の児童福祉問題に関わる援助の実際について、現代の子どもや家庭に関わる福祉課題の理解、理念の理解 (講義1.2.3.4)、子ども家庭福祉の法制度、関わる機関、支援、施設の理解 (講義5.6.7.8.9.10.11.12.13) をふまえ、今後の課題について考察ができる (講義14) ようになることを目指す。

学修目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。講義の目標 1. 現代社会における子どもや家庭の現状と福祉課題について理解する。 2. 子ども家庭福祉の法制度の基礎を理解する。 3. 子ども家庭福祉の援助体制や実際について理解する。 4. 子ども家庭福祉の動向と課題について理解する。

内容

- 1 現代社会と子ども・家庭の生活実態
- 2 子ども・家庭福祉の歴史的展開と現代的ニーズ1
- 3 子ども・家庭福祉の歴史的展開と現代的ニーズ2
- 4 子ども家庭福祉の理念 児童の権利
- 5 子ども家庭福祉に関わる法と実施体制
- 6 子ども家庭福祉と自立支援
- 7 児童虐待の理解
- 8 児童虐待、家庭内暴力への援助と防止
- 9 子ども家庭福祉サービスの実際 1
- 10 子ども家庭福祉サービスの実際 2
- 11 子ども家庭福祉サービスの実際 3
- 12 子ども家庭福祉サービスの実際 4 児童福祉専門職の専門性
- 13 子ども家庭福祉サービスの新しい動きと倫理の課題
- 14 授業の振り返り まとめ
- 15 講義の総括と学習に対するフィードバック

評価

学修目標に関する課題レポート (20点)、試験 (50点)、授業態度 (リアクションペーパー提出含む) (30点)。60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】子ども家庭福祉、社会福祉の授業で習得した知識の確認。各授業の前回内容の復習と次回の授業の箇所について理解できない点を調べる等を1時間半程度行う。

【事後学修】各授業終了後次週まで、配布資料や、テキスト、ノートから授業中に触れた内容を再度確認し、知識としての整理学習内容を深めるために、関連文献、情報等の確認を2時間半程度行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 講義中に示す

推薦書、参考文献等 講義中に適宜示す

科目名	家族関係論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科専門科目「生活と福祉」の2年次以上配当選択科目である。また、中学校教諭一種免許状（家庭）高等学校教諭一種免許状（家庭）の教職課程「教科に関する科目」のうち、「家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）」必修科目である。

科目の概要

生活の基本単位である家族という小集団と、そこでの人間関係の特徴を理解する。家族は、男女が結婚することによってつくられ、子どもの誕生によって成員を増やし、やがて子どもが独立することで規模を縮小し、最後は老夫婦のいずれか一方の死によって消滅するという、ライフサイクルを持っている。ライフサイクルのそれぞれのライフステージには、それぞれの生活課題がある。近年、わが国では未婚晩婚化、晩産化が進み、ライフサイクルの平均像が大きく異なっている。本科目では、家族関係における周期的な変化と時代的な変化を、実証的に読み解く力を習得する。

学修目標

家族という小集団の構造と機能、夫婦関係と親子関係について、周期的な変化と時代的な変化を読み解く力を身につける。

内容

1	ガイダンス - 家族の捉え方
2	家族のかたち - 1 . 核家族の二面性
3	家族のかたち - 2 . 家族の類型と分類
4	家族のかたち - 3 . 家族形態の変化
5	結婚と家族形成 - 1 . 異性交際
6	結婚と家族形成 - 2 . 配偶者選択
7	結婚と家族形成 - 3 . 結婚のかたち
8	結婚と家族形成 - 4 . 結婚の変化
9	発達する家族 - 1 . 家族のライフサイクル
10	発達する家族 - 2 . ライフサイクルの変化
11	発達する家族 - 3 . ライフコースと世代
12	家族のライフステージと発達課題 - 1 . 夫婦関係
13	家族のライフステージと発達課題 - 2 . 前期親子関係
14	家族のライフステージと発達課題 - 3 . 後期親子関係
15	総括

評価

授業時の課題30点、学期末試験70点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学内ネットワークの授業用フォルダに置いてあるワークシートで予習する。

【事後学修】ワークシートの解答を確認して、学期末試験に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

野乃山久也編（2009）『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社。

森岡清美（2012）『「無縁社会」に高齢期を生きる』佼成出版社。

比較家族史学会編（2015）『現代家族ペディア』弘文堂

科目名	児童福祉論		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 本科目は幼児教育学科専門科目における選択科目である。1年生、2年生で修得した保育に関わる専門科目（特に「社会福祉」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護」、「社会的養護内容」等保育必修科目全般）を踏まえてより保育の専門職として必要な児童福祉の現状と課題、子ども家庭福祉社会的養護領域の専門性を深く理解し、課題を考察できるようにすることをめざす。さらに、実践的、発展的な学習として学ぶ「児童福祉論演習」の基礎知識となる科目である。

科目の概要 本科目では児童福祉の内容について、現代の福祉援助課題に対応する児童福祉の基本的視座・意義や理念（講義1.2.3.4.）、児童福祉の対象や方法、子ども家庭福祉、社会的養護の内容の確認（講義5.6.7.8.9）、現状と課題並びに今後の展望（講義10.11.12.13.14）を理解し、考察を行う。

学修の目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。

講義の目標

- 1 現代の児童福祉の意義や理念、対象の理解、援助課題理解
- 2 施設運営や援助体制、専門的支援内容、専門職の理解
- 3 自立支援の視点や権利擁護の視点から具体的な論点の理解
- 4 児童福祉の現状と今後の展望理解

内容

内容

- 1 社会福祉・児童福祉とは
- 2 社会的養護、児童福祉施設援助の歴史1
- 3 社会的養護、児童福祉施設援助の歴史2
- 4 児童福祉の意義と基本原理
- 5 児童福祉の現状 1
- 6 児童福祉の現状 2
- 7 児童福祉施設における援助の内容 1
- 8 児童福祉施設における援助の内容 2
- 9 児童福祉施設における援助の内容 3
- 10児童福祉の課題 1
- 11児童福祉の課題 2
- 12子ども家庭福祉に関わる新たな施策 1
- 13子ども家庭福祉に関わる新たな施策 2
- 14子ども家庭福祉に関わる新たな施策 3
- 15総括

評価

学習目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。6

0点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】これまでに関心をもった子ども家庭福祉の課題の確認を行う。子ども家庭福祉、社会福祉、社会的養護に関わる基本的な法制度や施策、援助の要点を確認しておく。

【事後学修】授業中に扱われた事項に関する復習をノートや資料の整理、テキスト等の確認などから行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 講義内で示す。

科目名	児童福祉論		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本授業は幼児教育学科の専門科目であり、卒業研究へとつながる選択科目である。

科目の概要

障害のある子ども・大人の理解と支援、社会的養護を通して、保育者として子どもとその家族、家庭生活がより豊かになるためには何が求められているのかを考えていく。また、老若男女に親しまれる絵本の可能性についても考えていく。

授業展開としては、文献購読、臨床事例、視覚教材を用いて、知識を深め、事象に対する考察を深める。

学修目標

- ・ 障害のある子ども・大人の理解を深め、支援について知る
- ・ 障害のある子ども・大人の家族の支援について知る
- ・ 社会的養護を含めた、様々な子どもとその育ちの環境を知る
- ・ 絵本を用いたたのしみについて追究する
- ・ 支援対象者のニーズを柔軟にみつめる視点を養う

内容

科目概要に沿うことを前提に、初回授業にて何を重点的に学びたいと考えているのか受講者の希望を確認する。そのうえで、詳細な授業展開を検討する。

1	子どもの育ちと環境とは
2	家庭生活としつけ
3	障害のある子ども・大人とその家族の声
4	障害のある子ども・大人の理解
5	障害のある子ども・大人の理解
6	障害のある子ども・大人の理解
7	障害のある子ども・大人の理解
8	社会的養護の理解
9	社会的養護の理解
10	障害のある子ども・大人とその家族の支援
11	障害のある子ども・大人とその家族の支援
12	きょうだいについて考える
13	きょうだいについて考える
14	絵本の魅力とは
15	まとめ

評価

授業毎リアクションペーパー(20点)、グループ学習及び授業課題(30点)、期末レポート(50点)により評価を行

う。総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。？

[フィードバック] 授業毎リアクションペーパー、グループ学習及び授業課題は、毎授業開始時にコメントを述べ、必要な場合には提出課題に対してコメントを記載し、翌週授業時に返却する。

授業外学習

【事前予習】子どもや障害について関心をもち、様々な書籍にふれる努力をする。

【事後学修】授業内容について、改めて振り返り、理解を深める努力をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜紹介する。

科目名	児童福祉論演習		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本授業は幼児教育学科の専門科目であり、卒業研究へとつながる選択科目である。

「児童福祉論」と同様に、障害児、社会的養護についてふれ、保育者として子どもや家庭生活がより豊かになるためには何が求められているのかを考えていく。本科目は4年次「卒業研究」につながる科目である。

科目の概要

前半では、障害のある子ども・大人の理解と支援、社会的養護や絵本について受講生とテーマを設定し、当事者理解と家族支援について考えていく。後半では、グループ活動を行い、問いを立て、調べ、プレゼンテーションを行う。

学修目標

- ・ 障害をもつ当事者の視点に立って考える姿勢を培う。
- ・ 社会的養護に関する課題を整理し、考え、言語化する。
- ・ 当事者を支え、家族を支える際の柔軟かつ適切な判断力を培う。
- ・ 絵本の魅力を見出し、言語化する。

内容

前半では、受講生とテーマを設定し、テーマにそったビデオ資料を行う。

後半のグループ活動では、 障害児保育・療育、 施設養護や里親、 子育て支援と、 障害受容、 施設職員の職場環境とメンタルヘルスなどの内容を基にする予定である。

1	子どもの育ちと環境についてのテーマ設定
2	当事者理解について考える - 1
3	当事者理解について考える - 2
4	当事者理解について考える - 1
5	当事者理解について考える - 2
6	社会的養護について考える
7	社会的養護について考える
8	当事者の支援や絵本の読みあい
9	当事者の支援や絵本の読みあい
10	グループ活動
11	グループ活動
12	グループ活動
13	グループ活動
14	グループ発表にむけた準備
15	まとめ

評価

授業毎リアクションペーパー（20点）、授業課題（30点）、グループ学習の発表（50点）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とし、合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。？

〔フィードバック〕授業毎リアクションペーパー、グループ学習及び授業課題は、毎授業開始時にコメントを述べ、必要な場合には提出課題に対してコメントを記載し、翌週授業時に返却する。

授業外学習

【事前予習】各自でテーマを設定し、書籍などを購読する

【事後学修】レジュメや授業ノートを読み返し、振り返る

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内に適宜紹介する。

科目名	児童福祉論演習		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は幼児教育専攻専門科目における専門科目「生活と福祉」に位置づく選択科目である。1年生、2年生で修得した保育に関わる専門科目（保育必修科目全般）を踏まえてより保育の専門職として必要な児童福祉の現状と課題、社会的養護領域の専門性を実践的に考察できるようになることをめざす。

科目の概要 児童福祉論演習では児童福祉・社会的養護の内容について、現代の福祉援助課題に対応する児童福祉の基本的視座、養護の意義や理念を踏まえて、事例検討やグループディスカッションを行い現代における社会的養護についての課題を考察する。さらに、学習の成果についてプレゼンテーションを行い、他者へ伝達するスキル修得もめざす。

学修の目標 昨今の子どもをめぐる援助課題に対する施設利用児（者）と援助者の関係形成過程をはじめ、施設運営や援助体制、専門性、社会的養護における自立支援の視点や権利擁護の視点から具体的な課題分析を行う。本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で事例検討やグループディスカッションを行い現代における児童福祉・社会的養護についての課題を考察する。さらに、学習の成果についてグループもしくは個人でのプレゼンテーションを行い、他者へ伝達するスキル修得もめざす。 1 児童福祉・社会的養護における援助対象の理解、援助課題、専門性の理解 2 施設運営や援助体制、専門的支援内容分析 3 自立支援の視点や権利擁護に視点をおいた事例検討 4 学習成果のプレゼンテーション

内容

- 1 児童福祉・社会的養護の展開 1 ニーズの理解
- 2 児童福祉・社会的養護の展開 2 支援の展開
- 3 養護実践の専門性 1
- 4 養護実践の専門性 2
- 5 社会的養護体制の理解 1
- 6 社会的養護体制の理解 2
- 7 養護の課題 1 自立支援の展開
- 8 養護の課題 2 権利擁護の体制
- 9 事例検討1
- 10 事例検討2
- 11 事例検討3
- 12 事例検討4
- 14 今後の児童福祉・社会的養護の展望
- 15 まとめ

評価

授業態度（リアクションペーパーによる確認含む）50点、プレゼンテーションの評価30点、課題提出20点。合格点は60点以上。

授業外学習

【事前予習】児童福祉論 の内容を踏まえて、自分自身の課題、関心領域の基礎知識を確認する

【事後学修】授業内容のノート、資料整理を行い、疑問点の確認や考察を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 授業内で適宜示す。

科目名	健康教育学		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理に関する知識と技術を習得する。母子・親子保健の視点を持ち、多様な角度からの対応できる応用力を身につける。

科目の概要

児童保健学、での学びを基礎に、感染症、予防接種、安全管理など、保育の実践で出会うことの多い課題を取り上げて、学びを深める。講義中心に行うが、学習しやすいよう、練習問題なども取り入れ、理解の助けとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 保育中によく起こる子どもの疾病・症状とその予防・対応について説明できる。
2. 子どものよくかかる感染症とその対応を説明できる。
3. 病気になった子どもの保育について説明できる。
4. 保育所における安全管理について説明できる。

内容

- 1 双子の育児 外出対応
- 2 子どものけがとスポーツ外傷
- 3 子どもの肥満とやせ
- 4 熱中症、日射病などの夏の保育の注意
- 5 食中毒と保育
- 6 親子関係を良くするしつけのコツ
- 7 慢性疾患の子ども
- 8 (感染症 蟻虫、シラミその他)
- 9 (感染症 プール熱、水いぼその他)
- 10 最近の予防接種
- 11 学校保健安全法と感染症
- 12 病児保育、病後児保育、院内保育
- 13 子どもへの薬の飲ませ方
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み30%と試験70%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学修】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【推薦書】

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	健康教育学		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学科専門科目です。幼児期の運動発達とその援助に関する専門的な理解を深め、「健康教育学演習」へとつなげる科目です。

科目の概要

本授業では、幼児期の発達の特徴に応じた運動遊びの援助を行うために必要な理論を整理します。また、運動遊びに関する指導案作成を通して、幼児期の運動指導理論と実際の活動との整合性について理解を深めます。

学修目標

1. 幼児期の運動発達とその援助方法に関する理論を修得する。
2. 幼児期の発達の特徴に基づいた運動遊びに関する指導案を立案できる。

内容

1	ガイダンス (授業内容の詳細および授業の進め方等)
2	現代社会に生きる子どもの生活と保育者の役割
3	幼児期の運動能力、体力の捉え方
4	幼児期の運動発達の特徴
5	幼児期の運動発達の時代変化
6	遊びとしての運動の重要性 (動機づけ、遊具の役割)
7	幼児期の発達の特徴に応じた運動指導のあり方
8	遊びの中で進んで運動する子どもを育てる
9	幼児期の運動指導理論のまとめ
10	幼児期の運動指導理論のまとめ
11	運動遊びのための指導案作成 文献検討 (個人)
12	運動遊びのための指導案作成 指導案作成 (個人)
13	運動遊びのための指導案作成 指導案修正 (グループワーク)
14	運動遊びのための指導案のまとめ
15	運動遊びのための指導案のまとめ

評価

評価は、運動指導理論の理解度 (40点)、運動遊び指導案の完成度 (40点)、授業課題への取り組み (20点) の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】各回の授業内容と対応している教科書の部分を読んでおく。

【事後学修】授業内容を振り返り、まとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 杉原隆・河邊貴子編著 幼児期における運動発達と運動遊びの指導 ミネルヴァ書房

科目名	健康教育学演習		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

子どもの健康増進や安全管理に関する取り組みのあり方を演習から学び、観察力と対応力を身につける

科目の概要

児童保健学演習での学びを基礎として、保育の現場に即した取り組み内容に関して演習を行う。演習には積極的に参加する。不明な点は積極的に質問をし、主体的に演習に参加してほしい

学修目標（＝到達目標）

- 1 子どもの健康教育に必要な知識を説明できる。
- 2 健康支援のための計画の立て方ができる。
- 3 保育現場でよく見かける子どもの疾病とその予防及び対応について説明できる。
- 4 子どもの緊急時の対応や事故防止、安全管理について実施できる。
- 5 子どもの健康教育の実践の方法について説明できる。

内容

- 1 双子の育児 外出対応
- 2 けがの対応
- 3 予防接種のスケジュールモデル作成
- 4 保育現場での感染症事例検討
- 5 現場でよく見る感染症
- 6 熱中症対策
- 7 外国の子育てから学ぶ
- 8 慢性疾患児の対応
- 9 救急蘇生実習
- 10 冬の食中毒
- 11 学校保健安全法
- 12 病児保育
- 13 薬の与え方
- 14 復習
- 15 まとめと解説

評価

授業への取り組み40%と試験60%による評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの関連する部分を読んで、疑問点を整理しておいてください

【事後学習】授業中に分からなかった用語などを調べて意味を確認してください

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】巷野悟郎監修 保育保健の基礎知識 日本小児医事出版社

【参考図書】高野陽、加藤則子、加藤忠明、松橋有子編著 新版小児保健(新保育ライブラリ) 北大路書房

科目名	健康教育学演習		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科の学科専門科目です。卒業研究につながる演習科目として位置づけられており、担当者の研究室で卒業研究を進める学生は、基本的にはこの科目を履修していることが求められます。

科目の概要

子どもの運動指導 (わくわくチャレンジ2017及び子ども元気プロジェクト2017) を経験し、運動遊びに関する環境設定や援助についての知見を深めます。

学修目標

1. 子どもの運動遊びに関する環境設定や援助について体験を通して知見を深める。
2. 実際に行った活動を振り返ることにより、幼児の運動遊びに関する指導力を高める。

内容

1	ガイダンス (授業内容の詳細や授業の進め方等の説明)
2	わくわくチャレンジ2017での活動案作成
3	わくわくチャレンジ2017での活動案修正
4	わくわくチャレンジ2017の打ち合わせ
5	運動遊びの実際 (わくわくチャレンジ2017@幼教in桐華祭での実際の運動援助)
6	運動遊びの実際 (わくわくチャレンジ2017@幼教in桐華祭での実際の運動援助)
7	運動遊びの実際 (わくわくチャレンジ2017@幼教in桐華祭での実際の運動援助)
8	運動遊びの実際 (わくわくチャレンジ2017@幼教in桐華祭での実際の運動援助)
9	わくわくチャレンジ2017での活動を振り返る (反省とまとめ)
10	子ども元気プロジェクト2017での活動案作成
11	子ども元気プロジェクト2017での活動案修正
12	子ども元気プロジェクト2017の打ち合わせ
13	運動遊びの実際 (子ども元気プロジェクト2017での実際の運動援助)
14	運動遊びの実際 (子ども元気プロジェクト2017での実際の運動援助)
15	子ども元気プロジェクト2017での活動を振り返る (反省とまとめ)

評価

評価は、運動遊び活動案の作成過程と成果 (30点)、実際の運動遊び活動における取り組みと成果 (70点) の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】運動遊びに関する文献を読み、授業内容に対応できるよう準備する。

【事後学修】授業で指示された課題に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 特に使用しない

推薦書 授業中に随時紹介する

科目名	歌唱演習		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、4年生を対象に開講する科目で、音楽基礎（歌唱法）の応用編として位置づけるものであり、保育現場における音楽活動に必要な歌唱表現を学ぶ事を主眼とする。

科目の概要

単に歌を歌うだけではなく、身体表現としての歌唱法を探求し、自己表現力を高めるとともに、保育現場で必要とされる表現方法の獲得をめざす。また、実際の保育にあたって必要となる弾き歌いにも触れ、効果的な方法に関して学修する。

学修目標

- ? 具体的かつ実践的な歌唱表現の探求と開発
- ? 作品の本質を理解し、効果的な表現方法を自ら考え表現する
- ? 表現する楽しさを実体験として味わい、表現力の幅を広げる

内容

1	ガイダンス
2	発声法と呼吸法
3	声について
4	子どもの歌について
5	子どもの歌の表現法の探求
6	手遊び歌について
7	手遊びの歌の実践と創作
8	ボディパーカッションとボイスパーカッションの実践
9	身体表現を伴った歌唱表現について
10	身体表現を伴った歌唱表現の実践
11	音楽・歌唱を用いた作品の創作
12	音楽・歌唱作品の発表
13	弾き歌いに関して
14	弾き歌いの実践と考察
15	まとめ

評価

創作、表現活動への取り組み（30%）、授業への参加度（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 提示した課題に関して、適切に準備する。

【事後学修】 授業で学修した事に留意して、歌唱表現を探究する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業資料配布

【推薦書】 米山文明 『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦 『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、足羽 章 『日本童謡唱歌全集』ドレミ楽譜出版社

科目名	ミュージック・クリエーション		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

入学以来本学で学修した音楽に関する各自の力をさらに伸長し、総合的に高める。

科目の概要

幼児教育の現場での音楽的活動に、指導者として十分に力を発揮するために必要な能力を身につける。

各自のピアノ演奏技術を向上・伸長させ、レパートリーを広げるとともに応用力を高める。

学修目標（＝到達目標）

- ・人前で演奏し、互いに聞き合い、ディスカッションし、高め合う。
- ・音楽活動を楽しく指導・実践できる力を身につける。
- ・自分の演奏を発表することにより、自信をつける。

内容

1	授業概要・課題提示 読譜・初見について
2	初見復習とマーチ
3	五音音階・わらべうた
4	子どものうた（その1）
5	子どものうた（その2）
6	<発表1>
7	ピアノ曲 パイエル・ブルグミュラー
8	ピアノ曲 ソナチネ・ソナタ
9	<発表2>
10	ピアノ曲 いろいろなピアノ曲（その1）
11	ピアノ曲 いろいろなピアノ曲（その2）
12	ピアノ曲 いろいろなピアノ曲（その3）
13	課題発表・ディスカッション
14	<発表3>
15	まとめ

評価

授業への取り組み20% 課題創作20% 3回以上の演奏発表60%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】毎時間提示する課題曲および演奏発表へ向けて、週3時間以上の練習が求められる。

【事後学修】演奏発表を通して得られた他の学生の良い点や指導・助言などを参考にして、さらに自分の力を伸ばせるよう復習に努めてほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリント配布、各自のグレードに合わせたピアノ曲楽譜等、教室で紹介する。

科目名	ミュージック・クリエイション		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

入学以来本学で学修した音楽に関する各自の力をさらに伸ばし、総合的に高める。

科目の概要

幼児教育の現場での音楽的活動に、指導者として十分に力を発揮するために必要な能力を身につける。

各自のピアノ演奏技術を向上・伸ばさせ、レパートリーを広げるとともに応用力を高める。

学修目標 (=到達目標)

- ・人前で演奏し、互いに聞き合い、ディスカッションし、高め合う。
- ・音楽活動を楽しく指導・実践できる力を身につける。
- ・自分の演奏を発表することにより、自信をつける。

内容

1	授業概要・課題提示 読譜・初見について
2	初見復習とマーチ
3	五音音階・わらべうた
4	子どものうた(その1)
5	子どものうた(その2)
6	<発表1>
7	ピアノ曲 パイエル・ブルグミュラー
8	ピアノ曲 ソナチネ・ソナタ
9	<発表2>
10	ピアノ曲 いろいろなピアノ曲(その1)
11	ピアノ曲 いろいろなピアノ曲(その2)
12	ピアノ曲 いろいろなピアノ曲(その3)
13	課題発表・ディスカッション
14	<発表3>
15	まとめ

評価

授業への取り組み 20% 課題創作 20% 3回以上の演奏発表 60%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】毎時間提示する課題曲および演奏発表へ向けて、週3時間以上の練習が求められる。

【事後学修】演奏発表を通して得られた他の学生の良い点や指導・助言などを参考にして、さらに自分の力を伸ばせるよう復習に努めてほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリント配布、各自のグレードに合わせたピアノ曲楽譜等、教室で紹介する。

科目名	造形発達と表現		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育に関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。

科目の概要

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

学修目標

そのために乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について学び、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していくことがねらいである。

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性 (同一性) もおのずと理解されることになる。

1 ~ 2 1. 表と現と 「乳幼児独特の造形表現法について」

3 ~ 5 2. 幼児画の発達段階

- ・描き始めのころ (Scribble期・1~2歳ころ)
- ・伝達の喜び (象徴期・3~4歳ころ)

6 ~ 10 3. 幼児・児童画の特徴 「子どもの絵の読み取り方」

- ・共感する意義とそのポイント

11 ~ 15 4. 気になる、心配になる絵への理解と対応

- ・ストロークのもつ意味
- ・色彩心理との関わり

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

評価

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。

【事後学修】データ整理をこまめに行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

- ・磯部錦司編著『造形表現・図画工作－幼児から小学生の統合的美術教育－』建帛社
- ・平田智久・小野和編著「すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現」保育出版社刊

科目名	ボディアワーク		
担当教員名	渡邊 孝枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の専門科目です。体育基礎（身体表現）、保育内容の指導法（身体表現）の履修が完了していることが受講の条件です。

「身体表現論」「身体表現論演習」の履修が完了し4年次での選択履修が望まれます。

科目の概要

幼児の身体表現活動におけるもっとも大切な環境は、保育者の身体そのものです。

本授業は、保育者としての運動能力や体力、身体の表現力や創造性をより豊かに育むことを目的としています。自分の身体の可能性を極限まで広げるとともに、幼児の身体表現を引き出し、身体表現活動として展開していく力を養います。

学修目標（=到達目標）

- 1、自分の身体の可能性の極限に挑戦すること。
- 2、動きの中で、状況や他者の変化に柔軟に対応できるようになること。
- 3、身体表現活動を豊かに展開していく力を身につけること。

内容

1	ガイダンス
2	自分のからだの可能性を開拓しよう ストレッチング&リズムエクササイズ（1）
3	自分のからだの可能性を開拓しよう ストレッチング&リズムエクササイズ（2）
4	動きの中で他者のからだを感じよう
5	動きの中で他者のからだを感じよう
6	状況の変化に動きで対応しよう
7	状況の変化に動きで対応しよう
8	身体表現による小作品の創作活動
9	身体表現による小作品の創作活動
10	幼児向けのリズムダンスの創作
11	幼児向けのリズムダンスの創作
12	幼児向けのリズムダンスの創作
13	幼児向けのリズムダンスの創作
14	幼児向けのリズムダンスの発表
15	まとめ

評価

平常点50%（グループワークへの貢献、授業に対する積極性、意欲、態度など）、創作活動と発表30%、毎時の授業記

録20%とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】身近な素材からどのような身体表現活動に発展することができるかを常に考え、多様な題材を収集しておくこと。

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定しない。

科目名	児童音楽文化論		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の“子どもの音楽文化”について学ぶために「日本音楽教育史」「音楽教育学」「日本童謡史」などを学び、現代の子どもと音楽のかかわりを考えていく。

本来の意味での邦楽は「浄瑠璃」「能楽」「三曲」を代表とし、日本の「わらべうた」や「こもりうた」「神楽」などを総称したものである。日本の音楽文化の歴史を追い音楽教育とは何をすべきなのか、現場の子どもたちにはどのように音楽文化を伝えていくべきかをじっくりと考えていきたい。

日本音楽の歴史と日本音楽教育史の関係は、相反するものが見え隠れする。教育の現場での音楽教育を進めながら、日本独自の音楽を受け継いでいく複雑な日本の教育・社会の現状の上になら、自分なりの音楽ポリシーを養ってもらいたい。

確かな「音楽」の概念をしっかりと持ち、保育現場で生かせるような授業展開を進める。

内容	
1	日本音楽と時代のかかわりを「元号」で比較する
2	国楽・雅楽についての知識
3	浄瑠璃と浄瑠璃音楽について
4	邦楽の類別と音楽について
5	江戸時代の「箏曲」について
6	日本の「わらべうた」について
7	日本の「こもりうた」と「守り子うた」を考える
8	明治時代の「唱歌」の歴史
9	「唱歌」に見る教育と戦時下の「唱歌」について
10	大正時代と昭和中期までの「童謡」について
11	「童謡」の作曲家に童謡観をみる
12	「こどものうた」の誕生
13	「こどものうた」を支える作曲家たち
14	保育現場で伝えていく音楽文化を考える
15	まとめ

評価

授業への参加度60%筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】特に準備をするものはない

【事後学修】興味の範囲での音楽鑑賞を望む

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】毎時間必要なプリント配布を行う

【参考図書】町田嘉章他編 『わらべうた』 岩波書店

増本伎共子 『雅楽入門』 音楽の友社

丸山忠璋 『田村虎蔵の生涯』 音楽の友社

【推薦書】授業の中で紹介する

科目名	児童音楽文化論		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は音楽基礎 (歌唱法)、歌唱演習で得た音楽表現技術や知識及び幼児の音楽表現に関する専門的知識について深く理解することを目的とする。

科目の概要

本科目は、子どもに歌われる歌に関して歴史的変遷を概観し、理解を深め、視聴覚資料などを活用して具体的な事例を参照しながら学修を進める。さらに、子どもの音楽的表現、音楽表現に係る事項を取り上げ、その意義を学修する。

学修目標

1. 子どもに歌われる歌に関する知識を深める
2. 子どもの音楽的表現、音楽表現に関する知識を深める
3. 子どもの音楽環境に関する知識を深める

内容

1	ガイダンス
2	わらべ歌について
3	唱歌について
4	唱歌教育について
5	童謡について
6	児童雑誌「赤い鳥」について
7	戦後の子どもの歌について
8	詩と音楽の関係について
9	幼児の声域と声の発達について
10	声の管理 (怒鳴り声、小児嘔声・音声障害) について
11	マザリーズについて
12	読み聞かせ・素話について
13	子どもを取り巻く音楽環境について
14	音楽メディアによる子どもの歌唱表現への影響について
15	まとめ

評価

授業への参加度 (30%)、レポート (30%)、筆記試験 (40%) とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 授業に関連のある書籍を読んでおく。

【事後学修】 授業ノート、授業資料のまとめを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

授業資料配布。

【推薦書】

奥中康人『国家と音楽 伊澤修二がめざした日本近代』春秋社、竹内貴久雄『唱歌・童謡100の真実』ヤマハミュージックメディア

科目名	児童音楽文化論演習		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育現場で日々の保育に役立つ「紙芝居」「パネルシアター」「おはなし」「指人形」その他いろいろな活動の中から、“音楽を効果的に入れての実演”を行っていく。

簡易楽器、エレピアン、CDなどふさわしい楽器を選んで、豊かな文化財を子どもたちに提供する学びを進める。

現代においては、視聴覚の場面展開に子どもたちは生まれたときから慣れている。「紙芝居」「お話」などもそのみで行う場合はもちろんであるが、よりリアリティーな世界を展開することも必要な世界と考える。音を使った展開で子どもに提供する演習を進めていく。

内容

保育現場に於いては、保育の中で子どもたちに「えほん」「紙芝居」「おはなし」「指人形」「パネルシアター」などを保育者が一人で提供する場合が多い。それらの教材に音楽的效果を入れさらに内容を深く子どもたちに提供できるようクラビノーバや簡易楽器、ピアノなどを使って進めていく。

また、保育者が多数で行う人形劇などなどにも音楽効果を入れていけるような使用を考える。

どちらもあらゆる楽器やあらゆる音楽ジャンルを駆使しより効果的な文化財として授業で工夫をしていきたい。

数人のグループを組みグループ活動でこれらを仕上げる。実際に演じていくのはグループの中の1人であるが、協力して作り上げていく活動である。

演習授業であるので、教材を見つけそれを演じていく。その際にどのような音づくりをしていけばよいかを考え、選んだ教材がよりリアルなものとして受け入れられるかを考えながら発表する。

全員でその効果を考えさらなる工夫についての意見交換、読み方、演じ方、音楽の使用状況について話し合い、よりよい結果を求める。

これらを学生自身で工夫しながら、お話を提供するということを考えていく。

学生自身が音を選択し又他の学生の発表などからヒントを得て、順番に発表していく。

クラビノーバには、あらゆる楽器音はもちろんのこと、自然音から効果音などあらゆる音教がシステム化されており、録音もできるので実習などにも活用できる。

事前準備にかなりの時間を要することがある。

評価

授業に対する取り組み、熱意などで評価する。

取り組みの姿勢80%、毎回のノート20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教材を見つけ、必要なものを作成し、演じる練習をする。かなりの時間をかけての事前予習が必要と思われる

。

【事後学修】作成したもの、演じたものを保育現場で生かしていく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定はない。

【参考図書】イソップ物語。グリム童話。日本むかしばなし。世界のお話。古宇田亮順の「パネルシアター」関係書

科目名	児童音楽文化論演習		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は音楽基礎（歌唱法）、歌唱演習で学んだ音楽表現技術と児童音楽文化論で学んだ知識を専門的に活用することをめざし、受講者の音楽表現に係る保育実践力を養う事を主眼とする。

科目の概要

教育実習を前提に保育現場を想定した音楽に関わる授業計画を作成し模擬保育を行い、受講者相互に指導上の問題点や改善点を指摘し検討する。

学修目標

- 1、保育現場に適応した音楽に関わる指導計画の立案
- 2、実践による表現力と指導力の修得
- 3、話し合いによる指導法の客観的考察

内容

1	模擬保育の意義について
2	子どもの音楽的発達について
3	保育における音楽表現について
4	音楽に関わる指導案作成時の留意点
5	実習園の状況に合わせた指導案の立案
6	指導案の内容確認及び検討
7	模擬保育の実践
8	模擬保育の反省と考察
9	実習を終えて（報告と考察）
10	実習園の音楽事情報告
11	実習園での実例検証
12	楽器を用いた子どもの音楽表現の検討
13	子どもの音楽的発達に適した楽器の選択について
14	子どもの音楽的発達にあった適切な選曲とは（事例紹介）
15	まとめ

評価

授業への参加度（30%）、実践報告レポート（30%）、模擬授業演習（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】 模擬授業における指導案を複数作成する。
- 【事後学修】 授業ノート、授業資料のまとめを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 授業資料配布。

科目名	アート教育論		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は幼児教育専攻の専門科目であり、様々な専門領域の中で、保育における造形や造形表現について追求し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としている。

ここでの学びが卒業研究に結びついていく。幼児造形教育の意義や子どもの造形表現に対する理解、保育者の役割、造形活動の中で育まれるものや人とのかかわりを実技も含めながら学ぶ。

理論と実践を通して、造形活動における子どもの発達に即した理解や多様な表現方法、幼児造形教育の理解を深め自らの保育力を高めることを目標とする。

内容	
1	オリエンテーション
2	造形表現の意味と役割：表現することの意味
3	子どもの育ちと造形表現
4	絵の指導について1
5	絵の指導について2
6	身近な素材を使った表現を学ぶ1
7	身近な素材を使った表現を学ぶ2
8	身近な素材を使った表現を学ぶ3
9	身近な素材を使った表現を学ぶ4
10	グループ演習1：共同製作のための導入（構想）
11	グループ演習2：共同製作（製作）
12	グループ演習3：共同製作（製作）
13	グループ演習4：共同製作（製作）
14	グループ演習5：共同製作（製作）
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度（40%）により総合的に判断します。なお、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕磯部錦司編著『造形表現・図画工作－幼児から小学生の統合的美術教育－』建帛社
その他、適宜授業の中で紹介する。

科目名	アート教育論演習		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は幼児教育専攻の専門科目であり、「アート教育論」を履修後に、選択することが望まれている選択科目である。

保育者は幼児の人やものとのかわりの重要性を理解し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしていく必要がある。

幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に造形的な環境を構成していく力や実際に幼稚園や保育所での実習とも関連させながら子どもの発達を考慮した教材研究を通して将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	身近な素材を使った表現について学ぶ1
3	身近な素材を使った表現について学ぶ2
4	様々な描画材料について理解し「かく」活動について学ぶ1
5	様々な描画材料について理解し「かく」活動について学ぶ2
6	様々な描画材料について理解し「かく」活動について学ぶ3
7	様々な描画材料について理解し「かく」活動について学ぶ4
8	身近な素材を使った表現について学ぶ3
9	身近な素材を使った表現について学ぶ4
10	身近な素材を使った表現について学ぶ5
11	映像メディアを使った表現について
12	造形に関する保育計画案づくりについて1
13	造形に関する保育計画案づくりについて2
14	造形に関する保育計画案づくりについて3
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する(60点)。また活動への取り組み、学習態度(40点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】必要に応じて授業で使用する材料・用具を準備すること。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

磯部錦司編著『造形表現・図画工作－幼児から小学生の統合的美術教育－』建帛社

その他、適宜授業の中で紹介する。

科目名	身体表現論演習		
担当教員名	渡邊 孝枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼児教育学科の専門科目です。幼児の身体表現について学んできた理論をもとに、自ら問いを見つけ探求し、且つ実践を通して考えを深めていきます。

科目の概要

体育基礎（身体表現）、保育内容の指導法（身体表現）をもとに、身体表現に関わる自分自身の能力の進展を図ります。また、幼児期の身体表現活動の中から興味関心のある事柄を見つけ、その中から問いをたて、探求し、考えを深めていきます。

学修目標（＝到達目標）

- 1、身体表現に関わる自分自身の能力を高めること
- 2、幼児期の身体表現に関わる興味関心から問いをたて、探求、考えを深めること
- 3、学んだ知識を実践へ、実践から得た知識を学びへと循環できるようになること

内容

1	ガイダンス（授業の内容及び進め方）
2	自分自身の身体へ向かう 動きの中で自分のからだをみつめる
3	自分自身の身体へ向かう 動きの中で他者のからだを感じる
4	自分自身の身体へ向かう 動きをコントロールする
5	自分自身の身体へ向かう 動きの語彙を開拓しよう
6	幼児期の身体表現活動を考える 幼児の身体表現活動の実際
7	幼児期の身体表現活動を考える 幼児の身体表現活動を取りまく課題
8	幼児期の身体表現活動を考える 問題や課題を解決する方法の検討
9	幼児期の身体表現活動を考える 自分の興味や関心を広げる
10	演習 幼児の身体表現における各自の問いを発表し合う
11	演習 文献の検討
12	演習 先行研究の検討
13	演習 問いの探求、考察（1）
14	演習 問いの探求、考察（2）
15	発表とまとめ

評価

平常点50%（グループワークへの貢献、授業に対する積極性、意欲、態度など）、レポート50%により、総合評価60点以上を合格とします。

三分の二以上の出席で評価を受けることができます

授業外学習

【事前予習】授業内に紹介した推薦書や参考図書を読んでおくこと。

【事後学修】授業内で扱ったことに対し、自分の考えや疑問を記す記録ノートを作成すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で紹介します。

科目名	幼稚園教育実習総論		
担当教員名	上垣内 伸子、伊集院 理子、横井 紘子、山田 陽子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目で、幼稚園における教育実習の事前事後指導のための科目である。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための実習を行う際には、必ず本科目を併せて履修することが求められる。

科目の概要

実習前には、実習を行う幼稚園の組織、保育形態、今回行う実習の目的・目標などの理解を促し、実りある実習をめざす。そのために、実習に求められる様々な知識や技能が習得されているか、幼児理解、保育者の役割の理解などを確認する。実習後は、保育日誌などの記録を基に考察・討論し、保育者を目指す自己の保育行為の評価と課題の明確化をめざす。

学修目標

- ・実習に必要な事前学習と準備が整っている。
- ・実習後に自己の保育行為を評価し課題を明確化できる。

内容

（１）事前指導（参加観察実習）

学内での担当教員による実習の目的・目標、内容等に関わるオリエンテーション

実習園園長・実習担当者を学内に招聘しての特別講義

実習園に出向いての、園長・実習担当、担任等によるオリエンテーション

園の周辺の環境の自己調査と把握、環境特性の理解

（２）事後指導（参加観察実習）/ 事前指導（総合実習）

クラス全体、グループ、実習園別、担当年齢別、個別面談等、様々な規模と形態での話し合いを重ねながら、1週間の参加観察実習を振り返り、実習に関しての自己評価を行うと共に、総合実習に向けての課題を設定し、それに向けての準備に取り組む。

総合実習において取り組む指導案作成、責任実習のために、これまでに学んできた知識・技術の確認と、保育日誌等を基にした保育対象である子ども・子ども集団の理解に努める。

実習園にて、総合実習に関するオリエンテーションを受ける

（３）事後指導（総合実習）

実習園においての実習の総括としての反省会

学内での実習報告、これから実習を行う下位学年に向けての発表と話し合いを通して、自分にとっての実習成果は何かについて考える

自己の成長部分、努力が現れた取り組み、反省点などを踏まえて自己評価を行う。

事前指導では、幼稚園教育の基本となる考え方、子どもの生活実態、発達特性など保育実践の土台となる知識を整理し、これまでの実習体験や保育シュミレーションなどを通して、保育者としての自己課題を明確にすること、指導計画作成、教材研究など、実習に向けての具体的準備を行うことに取り組む。

自分の保育を振り返って反省し、主体的に評価を行うことが、保育実習後に学内で行う事後指導の要点である。保育実習日

誌などの記録を手がかりにして、自己の対象理解と保育行為について、クラスの仲間や指導教員と話し合い、更なる保育実践力の向上に向けて踏み出す契機とする。

なお、実習時期に応じ、「保育実習総論」にて事前指導を行ったり、後期には保育所保育実習、施設実習の事後指導を行うこともある。

評価

学内外での実習指導への参加状況(50%)、実習日誌やレポート等の提出(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。実習日誌や授業内課題は確認、評価を行い返却する。不十分なものについては、再提出を課す。

授業外学習

【事前予習】1～2時間。実習先の特性の理解を進め、保育援助や環境構成、教材に関する研究および指導計画の作成を行う。

【事後学修】1～2時間。実習後の自己課題を明確にし、各自の課題について達成目標を設定して改善向上に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

改訂2版 幼稚園 わかりやすい指導計画作成のすべて、柴崎正行編著（フレーベル館）

【推薦書】新版 遊びの指導、幼少年教育研究所編著（同文書院）

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	上垣内 伸子、権 明愛、伊集院 理子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭1種免許状取得のための必修科目である。幼稚園教諭免許状取得のための最終の現場における総合的実習である。実習事前事後指導のための「幼稚園教育実習総論」を同時履修すること。

科目の概要

本学科が指定した実習園にて、4週間の教育実習を行う。

保育観察、保育補助、保育計画の立案、教材研究、責任実習を行う。

学修目標

- ・これまでの専門的学習成果、保育技術を与えられた保育条件のもとで発揮すること
- ・幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うこと
- ・社会人、職業人としての基礎的常識、行動のしかたを身につけること
- ・幼児についての深い共感と洞察に基づいて保育の省察をし、よりよい保育実践の改善への手だてを考えることができること

内容

実習期間は参加観察実習1週間（3年次後期）、総合実習3週間（4年次前期）に分けられる。

実習中は毎日保育日誌を書き、幼児集団を指導する部分実習（数回）および責任実習（1~2日）を行う。

部分実習・責任実習においては指導計画を作成し、実習担当保育者から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とするが、帰省先での実習など特例は認められる。

実習に臨むための要件は、「履修の手引き」と「実習の手引き」参照。

実習内容の詳細は、「実習の手引き」を参照のこと。

評価

実習指導園に実習ごとに評価を頂き、それを参考に実習担当教員が評価する。評価の観点は「実習の手引き」に示してある。

実習日誌、事前事後指導における出席、提出物等も評価対象になる。

授業外学習

【事前予習】実習先の特性の理解を進め、保育援助や環境構成、教材に関する研究および指導計画の作成を行う。翌日の保育について考える。実習終了後に事後学習と予習に2~3時間をあてる。

【事後学修】その日の保育実践を振り返り、実習日誌を作成する。実習後の自己課題を明確にし、各自の課題について達成目標を設定して改善向上に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育実習総論に準じる。

その他は、実習授業開始時に指定する。

科目名	教職実践演習（幼）		
担当教員名	加藤 則子、齋藤 麗子、徳野 裕子、上垣内 伸子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は幼児教育学科の専門科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。教育実習を含め、教職にかかわるすべての科目を履修後、4年次後期に履修することが求められている。

科目の概要

保育者（幼稚園教諭、保育士）を目指す「学びの軌跡の集大成」として、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、幼児教育・保育を担っていくために必要な演習を行う。授業は 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 社会性や対人関係能力に関する事項 幼児理解や学級経営に関する事項 保育内容等の指導力に関する事項で構成される。

保育の今日的課題に関する講義 「ロールプレイング」：様々な役割を取り入れることで対象を理解する。「事例研究」：ある特定の保育テーマに関する実践事例を検討する 「現地調査」：現職保育者を招いて講和を聞いたり、保育現場等に出向き調査活動や情報の収集を行う 「模擬保育」：実際の保育を行い、自らの課題として残った事柄について学習する、など多様な方法で学習する。

学修目標（=到達目標）

保育者を目指す者として保育実践上の自己課題を明確化する。自己課題に対してどのように取り組んでいくかを計画する。必要な演習を通じて課題となっている知識・技能等を獲得する。

内容

1	ガイダンス：この科目についての説明、各自履修履歴の把握、自身の学びの振り返り 【加藤】
2	講義：子どもの疾病について（仮） 【齋藤麗子(健康管理センター)】
3	講義（外部講師）：幼保小連携について（仮） 【宮里暁美(認定こども園)】
4	講義（外部講師）：小児栄養について（仮） 【徳野裕子(健康栄養学科)】
5	現地調査のための準備 【潮谷、横井】
6	現地調査の実施 【潮谷、横井】
7	現地調査のまとめと発表・討論 【潮谷、横井】
8	テーマを選択し7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【大権 鈴晴 宮 向 藪 名】
9	テーマを選択し7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【大権 鈴晴 宮 向 藪 名】
10	テーマを選択し7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【大権 鈴晴 宮 向 藪 名】
11	テーマを選択し7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【金 上 川 鈴康 長 山 伊】
12	テーマを選択し7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【金 上 川 鈴康 長 山 伊】
13	テーマを選択し7グループ別模擬授業、ロールプレイ、事例検討【金 上 川 鈴康 長 山 伊】
14	グループ学習 についての学習成果の報告と討論 【加藤】
15	まとめ【加藤】

評価

授業への積極的参加（20%）、グループ活動への取り組み姿勢とプレゼンテーション内容（20%）、参加活動による作成資料の提出（30%）、期末レポート（30%）により評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

毎回の授業内容を事前に把握した上で、学んできた教職科目に関する内容を振り返る。

【事後学修】

授業の配布資料や自分自身が書いた課題をファイルに整理し、読み返す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

特に定めない。授業時に、必要に応じて紹介する。他にプリントを配布する。

【推薦書】

授業時に、必要に応じて紹介する。

【参考図書】

授業時に、必要に応じて紹介する。

科目名	保育実習総論		
担当教員名	向井 美穂、山田 陽子、川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育士資格取得者を対象とした選択必修科目である。本科目は「保育所保育実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。「保育所保育実習」と「施設実習」を履修しているものを対象とする。

将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

科目の概要

保育所保育実習の目的を踏まえ、これまでの実習体験を振り返り、自らの課題を明確にし、実践力を培うための実習を行う。具体的な保育計画や保育者としての動きを具体的に考え、保育の専門家としての自覚を養う。また、グループ学習で実習を振り返り、その話し合いを通して経験を共有することで学びを深める。

学修目標（＝到達目標）

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を経て実習と認められる。そのことを理解し、授業に積極的に参加する。また、授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。また保育者となる上での自己課題を明確化し、その課題に向き合うための力を持ち続けられることを目指す。

内容

< 「保育所保育実習」の事前指導 >

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習の目的と実習内容の確認
- ・自己課題の明確化
- ・実習先の特性の理解
- ・実習計画の作成
- ・実習生としての心構え
- ・実習日誌 / 指導案 / 実践演習
- ・個別指導

< 「保育所保育実習」の事後指導 >

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習後の振り返り（グループディスカッション、個別指導）
- ・実習課題（自己課題 / 保育課題）の確認

保育実習と幼稚園教育実習に内容がまたがる場合、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習総論」とあわせて受講することが望ましい。

尚、実習時期に応じ、「幼稚園教育実習総論」にて事後指導を行うこともある。

評価

授業への参加状況（50点）や課題提出（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。

実習の手引きを熟読しておく。

【事後学修】実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面談などを通して振り返り、自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示を行う

【参考図書】「保育実習総論」で指定する教科書

最新保育資料集2017（2015及び2016でも可） ミネルヴァ書房

科目名	保育実習総論		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格取得者を対象とした選択必修科目である。実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を経て実習となる。本科目は「施設実習」履修者の実習事前・事後指導を目的とする。

履修条件として、「保育実習総論」、「保育所保育実習」及び「施設実習」を履修していることを前提とする。

将来施設保育者を目指す学生が受講することが望ましい。

科目の概要

施設実習の実習目的を踏まえ、これまでの実習体験を振り返り、自らの課題を明確にし、実践力を培うための実習方法の確認をする。具体的な支援展開や保育者・施設職員との関係などのシミュレーションを行うとともに、自分の長所短所を客観視し、専門家としての自覚を養う。また、実習終了後には実習報告を行い、話し合いやプレゼンテーションを通して経験を共有し、可視化する中で専門職としての専門性を習得する。

学修目標 (= 到達目標)

授業の中で進める発展的学習・課題に取り組むことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。

内容

< 「施設実習」の事前指導 >

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習の目的と実習内容の確認
- ・実習先の種別及び特性の理解
- ・実習計画の作成
- ・実習生としての心構え
- ・実習日誌 / 指導案 / 実践演習
- ・個別指導

< 「施設実習」の事後指導 >

- ・授業概要とスケジュール
- ・実習後の振り返り (グループディスカッション、個別指導)
- ・実習課題 (自己課題 / 保育課題) の確認
- ・実習報告会の開催

保育実習と幼稚園教育実習に内容がまたがる場合、保育士資格あるいは幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習総論」とあわせて受講することが望ましい。

尚、実習時期に応じ、「幼稚園教育実習総論」にて事後指導を行うこともある。

事前指導及び事後指導において、毎回実習の手引きを持参すること。

評価

授業への参加状況（50点）や課題提出（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。

【事後学修】実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示を行う

【参考図書】履修時の「保育実習総論」で指定した教科書

最新保育資料集2017 ミネルヴァ書房

保育用語辞典[第8版] ミネルヴァ書房

科目名	保育所保育実習		
担当教員名	川喜田 昌代、権 明愛、山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、「施設実習」とともに必ず履修しなければならない（その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修。さらに「保育所保育実習」もしくは「施設実習」を選択履修すること）。本科目の履修にあたって「実習の手引き」を参照すること。

科目の概要

原則3年次に約2週間、保育所で実習を行い、責任実習も先方の保育所との相談の上経験する。保育所における最初の実習となる場合が多いので、まずは全年齢のクラスに1~2日間ずつ入れていただくようにし、年齢ごとの発達と保育のあり方を学ぶ。生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺の仕事を体験する。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、各自の実習課題を明らかにし、学びを深めていくことが必要となる。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に重要である。また、子育て支援における役割、他のスタッフの業務分担や協力関係も学ぶ。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し、家庭や地域との連携の必要性を学び問題意識をもってほしい。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、自己課題・保育課題を見つける。

内容

< 保育実習 の主な内容 >

実習施設の概要の理解

保育所保育の実情の理解（保育の流れ等）

乳幼児の発達

保育課程・指導計画の理解

多職種職員の連携によるチームワークの実情

家庭・地域の連携

保育方法と保育技能の理解と習得

安全・危機管理

疾病予防や健康維持を図る配慮

保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深める

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。実習依頼にあたって相談がある場合は、指定の期日内に早めに相談をしておくこと。また、実習は原則3年次の夏季休暇中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合がある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング（実習の準備も含めて）を立て、学生生活全体の調整をすること。

実習の事前事後指導にあたる「保育実習総論」との同時履修が望ましい。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、事前指導（主に「保育実習総論」）の内容をふまえ、実習目標に達成したかについて実習委員会で検討し、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。

乳幼児に対する専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。

【事後学修】実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「実習の手引」

<教科書>

阿部・増田・小櫃編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育所保育実習		
担当教員名	向井 美穂、権 明愛、山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育士資格取得のための実習として、必修の「保育所保育実習」「施設実習」のほかに、この「保育所保育実習」が「施設実習」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図るものは「保育所保育実習」、施設（保育所以外）における拡充を希望するならば「施設実習」を履修することとする。「保育所保育実習」「施設実習」「保育実習総論」を履修後に取り組み実習であるため、4年次に履修する。

科目の概要

「保育所保育実習」での実習では、今までの実習や主として「保育所保育実習」の中で探究した自己課題・保育課題と関連づけながら、学びを広げ深めていくことを主たる目的とする。そのため「保育所保育実習」の実習経験と「保育所保育実習」の実習をどうつなげるか、各自でよく考え、2週間の実習内容に関するプランを立てる。また、特定のクラス（原則3歳未満児クラス）で連続して実習を行い、責任実習をおこなう。

学修目標

各自の学びの課題を明らかにした上で実習プランを立て、受け入れ先の施設の実情に合わせ、大学の実習担当と相談して実習を進めていく。保育者としての、自己課題・保育課題を見つけていく。

内容

「保育所保育実習」の経験をふまえ、主として以下の内容に取り組む。

- 保育全般に参加し保育技能を習得する
- 子どもの個人差に応じた援助を理解する
- 多様な保育ニーズに対応した保育の展開を学ぶ
- 指導計画の立案と実践（責任実習）
- 家族や地域社会との連携を学ぶ
- 保育者の倫理について理解する
- 保育への自己課題の明確化
- 保育実習の総括

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受ける。責任実習（一日または半日の保育、または部分）の実施にあたっては、指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省という一連の保育の営みを体験する。「保育実習」で経験できなかったことにチャレンジする意欲をもって臨んでほしい。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括する。

尚、実習は原則2週間（土曜を含む）とし、大学で指導する基準を満たす民間の認可保育所を自己開拓する場合と、大学がすすめる民間の認可保育所に配属される場合とがある。原則「保育所保育実習」とは違う保育所で実習すること。また、実習時期は原則4年生の夏季頃、もしくは大学の授業のない期間にておこなうこととする。

毎回「実習の手引」を持参すること

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。また、事前指導及び事後指導への取り組み、必要提出書類の状況等も評価に反映させる。

授業外学習

【事前予習】[保育所保育実習]の内容を振り返り、自己課題を明確にしておくこと。積極的に学びを深める意欲を持つこと。

【事後学修】自己課題の振り返りと更なる課題を明確にすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示を行う

【参考図書】「保育実習総論 」で指定する教科書

最新保育資料集2017（2015及び2016でも可） ミネルヴァ書房

改訂版 保育所保育指針 厚生労働省編

科目名	施設実習		
担当教員名	潮谷 恵美、権 明愛、川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 保育士資格取得のための必修科目であり、「保育所実習」とともに必ず履修しなければならない（その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修である。さらに4年次に「保育所保育実習」もしくは「施設実習」を選択履修すること）。本科目の履修にあたって「実習の手引き」を参照すること。

科目の概要 3年次に保育所を除く児童福祉施設および知的障害者施設等で、11日～12日間（実実習時間90時間）の実習を行う。宿泊実習が原則となっている。施設における支援を行う保育士として必要な資質を、実践を通して体験的に学び、養う。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、以下の4点を本実習の目的とし、自己課題に取り組む。

- 1 施設実習園の理解を踏まえて、児童および利用者の方と共に生活し実習することにより、児童福祉施設・社会福祉施設の役割や社会的意義を体験的に理解する。
- 2 施設内で取り組まれている日常生活に関わる援助技術等を実践によって具体的に学ぶ。
- 3 施設を利用している児童や利用者と関係を形成し、適切な関わりを実践によって学ぶ。
- 4 施設で働く保育士の職務や役割、他職種との連携を具体的に理解し、指導を受けながら実践する。

内容

「実習の手引き」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

「事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 刈インテ-ション報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導（学内反省会） 個別指導（評価表にそって）」の流れにのっとって進める。

実習の事前事後指導を行う「保育実習総論」との同時履修が望ましい。

< 学内での事前指導 >

施設実習は施設の種類が多様で、実習時期の幅も広いいため、全体指導の他にグループ指導および個別指導を行い、実習に向けての心構えをし、準備を行う。主として「保育実習総論」の授業内で行う。加えてそれ以外の時間を設定することもある。

< 施設での実習内容 >

主な実習内容は次の2点。その他については施設の種類や対象年齢、施設実習園の方針等によって異なる。

日常生活全般の流れに沿って環境を整え、集団生活の中での基本的な生活習慣や社会性を個々に応じた計画に基づいて支援する。

食事、排泄、入浴、着脱衣の生活処理能力としてのADL(日常生活動作)の自立を支援し、必要な援助を行う。

・実習後、日誌を書くことによって保育体験の中身を自分自身で振り返ることと、実習指導者から反省会等の場で直接指導を受けたり、日誌への講評を頂いたりする過程で、日々の実習での学びを積み重ねていく。

< 学内での事後指導 >

実習全般を振り返り、グループ指導の中で各自が自分の実習を振り返りつつ互いの経験を共有して、これからの保育の学びの糧にする。必要に応じて個別指導も行う。

評価

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受けることに加えて、事前指導（主に「保育実習総論」）、日誌の内容を踏まえて、実習目標に達成したかについて実習委員会で検討し、大学で総合的な評価への読み替えを行う。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。

【事後学修】実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編 最新保育講座 13 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	施設実習		
担当教員名	鈴木 晴子、権 明愛、川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）- 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格を取得するためには、必修の実習である「保育所実習」「施設実習」に加えて、「保育所保育実習」あるいは「施設実習」のいずれか1つを履修する必要がある。原則として、施設（保育所以外）における拡充を図る場合は「施設実習」となる。実習の事前事後指導にあたる「保育実習総論」との同時履修が望ましい。本科目の履修にあたって「実習の手引き」を参照すること。

科目の概要

施設実習は、将来保育所以外の児童福祉施設における保育士を目指す学生が主に選択する実習として位置づけており、「施設実習」で行った保育所以外の児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標としている。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、本実習の目的に向けた実習計画を立てて臨む。実習を通して、生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、支援対象者のニーズを捉えた援助の実践を目指す。また、「施設実習」で経験できなかった生活援助計画、個別援助（ケースワーク）、集団援助（グループワーク）計画案を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことを求めたい。

内容

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先を自己開拓することが求められる。実習配属にあたっては、受け入れ先との交渉、その他の実習スケジュールとの関係も考慮する必要がある。宿泊型および通所型の福祉施設が対象となる。

実習先を自己開拓するにあたっては、以下5点について整理した上で検討することが必要である。

施設の成り立ち、時代背景、社会的ニーズなど施設を取り巻く環境変化などを理解する

子どもの入所経路や入所理由など、社会的背景を十分に事前学習し施設の果たしている役割、機能を理解する

実習施設の生活環境などを理解する

子どもたちや障害のある人々の家族はどのような思いや願いを持って施設を利用しているのかを理解する

施設で生活している人々の抱える問題、それが社会的にどのような状況から生じているのかを理解する

また、施設保育士に求められる要素の一つとしてソーシャルワーク的援助が挙げられる。施設における生活場面での直接援助および家族に対する援助といった視点についても学びを深めていくこと。さらには実習先によっては障害に関する専門的知識を有していることが必要とされる。よって、実習先に応じた具体的実習計画を立てて実習に臨むことが求められる。

実習では、「施設実習」で経験できなかった生活援助計画、個別援助（ケースワーク）、集団援助（グループワーク）計画案を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことが求められる。また生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、さらには実践的な援助が出来るように取り組むことが臨まれる。

実習終了後の日誌においては自身の保育観や社会的養護、障害に対する見方等についても振り返ることが求められる。

評価

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受けることに加えて、事前指導（主に「保育実習総論」）、実習日誌の内容を踏まえて、実習目標に達成したかについて実習委員会で検討し、大学で総合的な評価への読み替えを行う。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた保育士資格取得に関わる専門科目における学びを確認しておく。施設、施設利用児・者、専門的援助と専門職に関わる基本事項を確認しておく。

【事後学修】実習で得た学びを、記録、ディスカッション、面接などの方法を通して確認し、さらに自らの課題を明確にする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書]履修時の「保育実習総論」で指定した教科書

[参考書]最新保育資料集2017 ミネルヴァ書房

その他、実習先に応じて適宜個別に指示をする

科目名	保育インターンシップ		
担当教員名	上垣内 伸子、権 明愛、川喜田 昌代、山田 陽子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育インターンシップは、幼児教育学科の学科専門科目である。免許・資格習得にかかわらない学生の自発的な選択による幼稚園、保育所などの児童福祉施設、その他における実習の科目であり、学生の主体的な取り組みが期待される。明確な実習課題を持っている場合に履修を認める。学科が実習先とのインターンシップの取り決めを結んだ上で、保育者としての責任とチームの一員としての自覚をもって実践に臨む。履修希望者は、履修登録前に、実習課題および実習計画書を担当教員に提出し、事前の相談を行った上で履修登録を行う。

3 年次および4 年次の前期オリエンテーション時に履修希望調査を行うほか、個別相談も受け付ける。時間をかけて準備をして意欲を持ってインターンシップとしての保育実践に臨んでもらいたい。

科目の概要

保育実践を必要とする発達研究、保育方法・保育内容に関する研究、保育者となるための保育実践力の向上などを目的とするインターンシップとしての性格を持つ実習である。現場指導者と科目担当者から指導を受けながら、1年間または一定期間の現場実習と実践記録の作成、それに基づく省察を深める。

学修目標

- ・受講生自身が設定した目標への到達を目指す。
- ・発展的な課題を設定して、保育における研究的視点の獲得を目指す。

内容

実習にあたっては、実習担当者に実習課題および実習計画の概要レポートを提出する。実習中は実習日誌を毎日実習先に提出し、実習後は、実習前に提出したレポートをもとに考察レポートを作成し、実習先と大学双方に提出する。

実習先は、実習目的に合う実習先を担当教員と相談のうえで決めることとするが、目的によっては出身地の園や施設などを自己開拓することもすすめる。

実習方法および実習時期は、授業に支障のないように実習生と実習先との話し合いによって決め、実習目的、実習先の状況等により、次のいずれかの方法をとることができることとする。

毎週1 日実習 (12 日程度) の実習

2 週間継続実習

1 週間ずつの分割実習

および の組み合わせ

インターンシップとしての性格ももつ実習であり、実習担当教員と現場での実習指導担当者が連携して指導に当たり、実習生と三者での話し合いを通して、実習課題の探求および保育実践力向上に資する実習となることを目指す。

評価

実習先からのコメント、および提出されたレポートと実習日誌、学内での実習指導参加状況とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習先の種別および特性の理解をすすめ、実習計画の作成を行う。

【事後学修】実習後の自己課題を明確にし、その改善向上に取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各実習によって異なるので、受講生と相談して決める。

科目名	卒業研究		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、卒業研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】これまで修得してきた学修を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む。

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおして考察を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める

論文の提出締切は平成30年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

評価

論文の成果、論文作成にあたっての取り組み、卒業研究発表会への参加及び発表をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。毎回の指導に向けてレジュメを作成する。

【事後学修】指導教官の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、学びを深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

幼児教育学科卒業必修科目である。

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につけることをねらいとする。

内容

グループ指導及び個別指導を通して、

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・お互いに研究テーマについて積極的に研鑽する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締切は平成30年1月上旬の予定である

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について報告する

評価

論文の成果、論文作成にあたっての取り組み、卒業研究発表会への参加及び発表をもって、総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。毎回の指導に向けてレジユメを作成する。

【事後学修】指導教官の指導にそって論文作成を進める。また、卒業研究発表において、指摘を受けた内容については再考する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個々の進捗に応じて、適宜指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。意欲及び探求心を持って取り組めたか、幅広い視野を持つよう努めたか等各自が卒業研究を進めていく姿勢についても重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加と発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】各自のテーマに必要な文献や論文を自ら探して熟読する。論文作成に関する計画を立て、各自の責任において書き進める。

【事後学修】授業内での教員や仲間からのアドバイスや意見を参考にして自分のその時々々の論文内容を再考する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

科目の概要：自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、1年という長い時間を使って自発的に調査・研究を行う。

学修目標：

- ・課題探求能力を養う
- ・調査・研究方法を身に付ける
- ・論文執筆の技術を高める
- ・他者への説明能力を磨く

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】教員の指示に従い、各回の授業までに出された課題を行うこと。

【事後学修】授業内容を復習し、研究を進めるために出された課題を行うこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	横井 絃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

幼児教育学科卒業必修科目である。

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。研究を進める中で、論理的に考える力、内容を正確に伝える表現力を身につけることを目標とする。

内容

個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見つける
- ・ 研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・ 自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
- ・ 論文にまとめる

論文の提出締め切りは平成30年1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントで発表する。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジュメ作成、データ整理、論文作成などを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書を紹介・資料の配布を個別に行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・ 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・ 結果に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・ 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別の指導で行う。個別指導については、学生の意欲的な姿勢を基に実施する。

- ・ 各自がこれまでの学びの中で音楽に関するどの分野に興味関心を持っているかを精査し、研究テーマを見出し、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および研究内容の発表をもって単位認定し評価をする。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各自の研究テーマに関する文献を集め、内容を精査する。

【事後学修】研究テーマにそってアウトラインを固め、卒業論文の完成を目指す。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】新版 論文の教室 レポートから卒論まで (NHKブックス No.1194) 戸田山 和久 (著)

科目名	卒業研究		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科卒業必修科目である。

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。研究を進める中で、論理的に考える力、内容を正確に伝える表現力を身につけることを目標とする。

内容

個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見つける
- ・ 研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・ 自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
- ・ 論文にまとめる

論文の提出締め切りは平成30年1 月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントを活用するなどして発表する。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジュメ作成、データ整理、論文作成などを行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書を紹介・資料の配布を個別に行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学における幼児教育の学びの総まとめとしての科目である。

自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

テーマとじっくりつきあう中で、感受性と思考力、表現力を総合的に培うことをねらいとする。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して、

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、事例またはデータを集め、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締切は平成30年1月上旬の予定

論文提出後、研究発表を行う

評価

論文の成果50% 作成にあたっての取り組み40%、 発表10%などから総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】研究テーマに応じ、先行研究および関連文献の購読・整理を行うこと。研究をまとめるにあたっての基本的な書き方・形式を確認しておくこと。

【事後学修】授業内で指示された論文・文献の購読・整理を行うこと。指導内容をふまえ、計画的な論文作成に努めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

授業外学習

【事前予習】論文作成に向けた資料整理及び論文の仮執筆

【事後学修】指摘を受けた箇所の再考

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼児教育専攻の教育課程における必修科目である。学科内の指導の下、ゼミ担当教員を決定する。本科目は3年次の「アート教育論」及び「アート教育論演習」の授業内容と関連している。

科目の概要

卒業研究は大学における学びの総まとめである。作成にあたって、自らの興味と関心によって自主的にテーマを設定し、指導教員の指導・援助を得ながら探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ提出し、発表を行う。授業としては、論文購読や方法論について他の学生とともに議論し共同的に学ぶ内容と、個々の調査方法・進捗状況に応じた個別指導による内容を実施する。

学修目標

1. 幼児教育・保育や研究方法に関する基本的知識を理解した上でさらに発展的に考え、探究する研究的態度を養うこと
2. 調査の実施にあたって必要な社会性を養い、社会や地域への貢献について理解すること
3. 学生同士の議論や質疑応答を経験し、自らの考えを言葉にする力を養うこと
4. 卒業研究の執筆と発表を通して、第三者にわかりやすく伝える技法を理解することを目標とする。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる
- ・ プレゼンテーションの技法を学ぶ
- ・ 研究発表をおこなう

論文の締め切りは例年1月10日頃の予定。日程や様式等の詳細は随時通知する。

論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

授業外学習

【事前予習】大学における学びの総まとめであることをふまえ、研究を行う上での自己課題・テーマの探究、必要な書籍・論文の下調べを各自でおこなっておいてほしい（ゼミを実施しながら指導もおこなう）。

【事後学修】ゼミで指導を受けたことをふまえて、研究を進めるための準備を各自で進めてほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは2018年1 月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた学習を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて再度調べなおして考察を行う

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出（60％）と、卒業研究発表会への参加および発表（40％）をもって単位認定し評価をする。なお、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自身のテーマにそって計画的に文献調査等を行うこと

【事後学修】授業を通して得た次の課題を理解、整理し研究を継続して進めること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 則子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Rクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する。
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる。
- ・論文にまとめる。

論文の締め切りは、平成30年1月上旬の予定。

* 日程の詳細は4月に通知する。

また、論文提出後は、研究発表会を行う。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

授業外学習

【事前準備】自ら計画を立てて実行すること。

【事後学修】問題点や助言を受け、それらに沿って主体的に行動すること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Sクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】これまで修得してきた学修を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む。

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおして考察を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	渡邊 孝枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Qクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】これまで修得してきた学修を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む。

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて、再度調べなおして考察を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・結果（エビデンス）に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別指導を通して、以下の力を身につける。

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・自らが設定したテーマにふさわしい研究方法を探究し、データを収集・整理し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる
- ・仲間とのディスカッション、共同での学びを通して、自らの考えを深める

論文の提出締切は平成30年1月上旬の予定である。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

評価

論文の成果、論文作成にあたっての取り組み、卒業研究発表会への参加及び発表をもって、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

論文の作成に際しては、個別かつ応答的に指導を行う。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。毎回の指導に向けてレジュメを作成する。

【事後学修】指導教官の指導のもと論文作成を進める。また、指導を受けた内容や仲間からの助言について再考し、学びを深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。意欲及び探求心を持って取り組めたか、幅広い視野を持つよう努めたか等各自が卒業研究を進めていく姿勢についても重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加と発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】各自のテーマに必要な文献や論文を自ら探して熟読する。論文作成に関する計画を立て、各自の責任において書き進める。

【事後学修】授業内での教員や仲間からのアドバイスや意見を参考にして自分のその時々々の論文内容を再考する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

科目の概要：自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、1年という長い時間を使って自発的に調査・研究を行う。

学修目標：

- ・課題探求能力を養う
- ・調査・研究方法を身に付ける
- ・論文執筆の技術を高める
- ・他者への説明能力を磨く

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】教員の指示に従い、各回の授業までに出された課題を行うこと。

【事後学修】授業内容を復習し、研究を進めるために出された課題を行うこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育学科卒業必修科目である。

科目の概要

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、発表する。自らが設定したテーマについて、研究を進める中で、感受性、論理的に考える力、内容を正確に伝達する表現力を身につける。

学修目標

- ・ 研究テーマ研究目的に応じた研究方法を選択して研究を行うことができる。
- ・ 結果に基づく分析と考察を行うことができる。
- ・ 研究成果について論理的に記述し、発表することができる。

内容

グループ指導及び個別の指導で行う。個別指導については、学生の意欲的な姿勢を基に実施する。

- ・ 各自がこれまでの学びの中で音楽に関するどの分野に興味関心を持っているかを精査し、研究テーマを見出し、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および研究内容の発表をもって単位認定し評価をする。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各自の研究テーマに関する文献を集め、内容を精査する。

【事後学修】研究テーマにそってアウトラインを固め、卒業論文の完成を目指す。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】新版 論文の教室 レポートから卒論まで (NHKブックス No.1194) 戸田山 和久 (著)

科目名	卒業研究		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業必修科目です。大学における幼児教育の学びの総まとめとして、テーマを設定し、卒業論文にまとめて提出し、卒業論文発表会で発表します。

科目の概要

同じゼミの仲間と共に、各自が自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについての研究に取り組み、指導教員の指導を受けたり仲間と協力し合いながら論文にまとめて提出し、その成果を発表します。

学修目標

- ・ 同じゼミの仲間の論文に関心をもって意見を述べたりアドバイスしたりする中で同じ目標をもつ仲間と気持ちよく協力し合える力を具体的につけること
- ・ 自分自身が一番研究したいことをテーマとして選び、自分の満足のいく論文に仕上げること
- ・ 保育実践を行う過程においてテーマを見つけて研究しようとする態度を身に付けること

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加と発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】各自のテーマに必要な文献や論文を自ら探して熟読する。論文作成に関する計画を立て、各自の責任において書き進める。

【事後学修】授業内での教員や仲間からのアドバイスや意見を参考にして自分のその時々々の論文内容を再考する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

授業外学習

【事前予習】論文作成に向けた資料整理及び論文の仮執筆

【事後学修】指摘を受けた箇所の再考

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは2018年1 月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前予習】これまで習得してきた学習を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や、知識などについて再度調べなおして考察を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Sクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 科目の概要 学修目標（=到達目標）

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成30年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文の提出後は、研究発表を行う。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

授業外学習

【事前準備】これまで習得してきた学修を確認し、自らの関心に応じた文献を読み込む。

【事後学修】指導を受けたり、演習メンバーとディスカッションをして得た関心や知識などについて、再度調べなおして考察を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】

履修者の選定した研究テーマに応じて参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	横井 絃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 幼児教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科卒業必修科目である。

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。研究を進める中で、論理的に考える力、内容を正確に伝える表現力を身につけることを目標とする。

内容

個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見つける
- ・ 研究テーマに関する先行研究を探し、読み、まとめる
- ・ 自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、データを収集し、整理し、考察を進める
- ・ 論文にまとめる

論文の提出締め切りは平成30年1月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について、パワーポイントで発表する。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

授業外学習

【事前予習】指導教官の指導のもと、先行研究のまとめ、データ収集などを行う。

【事後学修】指導教官の指導のもと、レジュメ作成、データ整理、論文作成などを行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書を紹介・資料の配布を個別に行う。